轍

- わだち -

大分県作業療法士連盟

10 周年記念誌

轍

―わだち―

大分県作業療法士連盟

10 周年記念誌

INDEX

会長挨拶 …… 3

ご祝辞 …… 4

連盟 10 年史 …… 13

連盟事業活動史 …… 25

大分県作業療法士連盟　組織図・組織体制の変遷 …… 32

活動成果 …… 35

１０周年記念式典 …… 39

設立１０周年特別企画　議員サミット …… 40

部員紹介 …… 42

今後の展望 …… 44

資料 …… 45

会長挨拶

大分県作業療法士連盟
会　長　荒木　良夫

多くの人々の想いに突き動かされるように始まった当連盟は、設立 10 周年という節目を迎えることができました。これもひとえに、会員一人一人のご理解、関係者皆様のご支援の賜と深く感謝申し上げます。

我々を取り巻く環境は、大きく変わってきています。団塊の世代が後期高齢者となる 2025 年問題も目前です。「地域共生社会」の確立が急がれ、作業療法の地域における社会的ニーズは高まっています。しかし、その一方でまだまだ知名度や職域が広がったとは一概に言えない状況です。

当連盟活動は、（公社）大分県作業療法協会の目的達成に必要な政治活動及び関連諸活動を担っています。

作業療法士として広く社会に貢献するために、社会人として当たり前に政治に関わる必要があります。政治活動は、民主主義の根幹です。

事実、医師や看護師など多くの専門職が連盟活動を通し政治に関わり、人々の健康と幸福な社会の実現に働きかけています。そして、それぞれの職種の「地位向上」「働く環境の改善」を実現しています。

設立当初は、「日本作業療法士連盟とともに国政に働きかける」ことと、「大分県下で作業療法士の地域の議員を作る」ことを夢見ていました。しかし、このその現実は、様々な壁にぶつかり何度も大きく変更されました。今後も夢見ながら粛々と行動していく必要があります。

この 10 年の活動で良い成果も多くありました。各地域の議員や候補者と出会い、作業療法士を知ってもらいました。また、議員に作業療法場面を直接視察してもらい意見交換も多く行うことができました。これにより、『作業療法の地域における自立支援の考え方』や『生活行為向上のリハビリテーションの重要性』を理解していただきました。地方議会で生活行為向上について議論されることのきっかけになれたことは非常に重要でした。

さて、県下の作業療法士が政治活動の重要性を感じ、連盟の会員となっています。しかし、8年目に 600 名を超えてからここ 3 年間は会員数が伸び悩んでいます。（公社）大分県作業療法協会の会員数約 1200 名から考えるとまだまだ、作業療法士の政治に対する意識が高いとは言えず、我々連盟の広報の力不足を感じます。

これまでの 10 年は、ただ我武者羅に突き進んだ時代でした。甘えた考えや、わがままな行動も許されたと思います。今後はそうはいきません。この節目に、設立時の精神を大切にしつつ自らの立ち振る舞いをしっかりと考える団体になる必要があります。

今後も会員諸氏並びに関係各位のご支援、ご協力が必要不可欠です。これまで以上のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ご祝辞

前参議院議員
医学博士
足立　信也

「大分県作業療法士連盟10周年記念誌に寄せて」

大分県作業療法士連盟が発足して10周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。そして連盟発足以来、私や私の所属する政党に対するこれまでの連携、協力、支援、中でも発足以来2度の参議院議員選挙におきましては連日の個人講演会参加と私の政治信条へのご理解、政策提言への共感を賜り、感謝に堪えません。今年7月の結果は大変残念でしたが、私の政治的活動や医師としての姿勢、そして皆さんとの協働は何一つ変わらない事をまず申し上げたいと思います。

言うまでもなく、「作業」とは日常生活のすべての活動を意味しており、その科学的研究はQOL(Quality of Life)を高め、健康寿命を延伸する方向へ保健・医療・福祉・教育等の領域において深化してきました。「作業療法士」はその国家資格者です。現在、日本には約9万人の作業療法士がおられ、約6万4000名が協会に加入され、さらに約900名の連盟会員がおられると聞いています。数の問題ではないとはいえ、民主主義にとって数の力は重要です。作業療法士の政治活動への関心は著しく低いと言わざるを得ません。政治活動というととかく敬遠されがちですが、この活動がなければ、作業も作業療法も作業療法士の認知度も上がらないと思います。

では今後、「作業療法士連盟」が全面的に支援する「作業療法士協会」の果たす役割について私の考えを申し上げます。

「人生100年時代」という言葉が溢れていますが、私は誰もが100年の寿命を目指すことは容易ではないと思っています。食物に対する安全性は格段に向上しても大気からくる物質や温暖化、何よりも人類が直立歩行を獲得したことからくる弊害等、これらを克服していくにはあらゆる細胞、組織、臓器の移植や再生医療の画期的な進歩がなければ不可能に思われます。とすれば、自ら持つ機能の維持や温存、リハビリテーション（全人間的復権、というか再向上）が大切になります。一度根付いてしまった「人生100年時代」という言葉の実現には作業療法士や理学療法士の皆さんのさらなる科学的進化･深化、及び普及に負うところが大きいのです。加えて、時代は基礎自治体や地方自治体の力や連携が主役となりつつあります。

以前から私は大分県作業療法士連盟に対して地方議員を作ることを促してきました。すでに都道府県議会や区市町村議会で議員として活躍している作業療法士の皆さんの研修会が行われているようですが、地域による温度差が相当あるようです。しかしながら、前述のように作業療法・作業療法士の重要度は今後も益々増していきますし、それ以前に作業療法・作業療法士が国民に広く認知され、有用な専門職として、各地域で明確に位置付けてもらうことが何より必要です。

皆さんの今後の研鑽､活躍を祈念し､心からのご協力をお約束致しますとともに､連盟の発展､加入作業療法士さんの益々のご健勝をお祈り致しまして連盟発足10周年のご挨拶と致します。

衆議院議員
吉良　州司

「大分県作業療法士連盟10周年記念誌に寄せて」

大分県作業療法士連盟の設立１０周年記念事業の一環として、本記念誌が発行されますことをお祝い申し上げますと同時に、この貴重な記念誌に寄稿する栄誉を与えて戴き感謝申し上げます。

また、昨年秋の衆議院選挙はもちろん、日ごろから作業療法士のみなさんから力強いご支援を賜っておりますこと、この場を借りて深く感謝申し上げます。

大分県作業療法士連盟は作業療法を通して、大分県民の健康的な生活の維持向上や一人ひとりが生きがいを持ち豊かに暮らせる社会を実現するために日々貢献されています。

私たちはこの世に生を受けてから命が尽きるまでの間、様々な出来事を経験しますが、人間万事塞翁が馬と言われるように、いつ何が起こるか分からないのが人生です。思いもしなかった病気や怪我等により、身体的に、時に精神的に日常生活に支障をきたすことが生じます。そんな時、日常を取り戻そうとする人に寄り添い共に歩んでくださる作業療法士のみなさんの助けがどんなに必要であることか。みなさんが「サポートを受ける一人ひとりが社会の中で豊かに生きていけるように」と常に思考を巡らせ働く姿に敬意と感謝の意を表します。

また、今日本が抱える大きな課題の一つである「少子高齢化」を起因とした「介護問題」をはじめとした幅広い領域においても作業療法士の存在は重要です。少子化により労働力人口が減少してあらゆる業界で人手不足が問題となる中、「身体障害領域」「精神障害領域」「発達障害領域」「老年期障害領域」といった広範な領域で日夜活動されている作業療法士のみなさんは、今後、益々社会に必要とされます。

近年、「地域づくり」「地域力」「地域資源の連携」の促進が急がれるようになり、今後、貴連盟の活動の場は全国に広がっていくことと思いますが、作業療法を必要とする方々が、サポー全国津々浦々まで豊かに暮らせる社会が実現できるよう、今後ともご尽力、ご活躍戴くことをお願い申し上げます。

また、私は、常に「生活者主権の国」「将来世代優先の政治」「国民一人ひとりが幸せ感を感じられる国づくり」を実現したいと念じ、活動しておりますが、社会に多大な貢献をされておられます大分県作業療法士連盟に集うみなさんと共に、そのような社会や国づくりに邁進したいと思いますので、引き続きみなさんのお力を貸して戴きますようお願い申し上げます。

結びに、この記念事業を機に更なる飛躍と皆さまの益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。

竹田市長
土居　昌弘

「大分県作業療法士連盟10周年記念誌を祝して」

大分県作業療法士連盟が発足して記念すべき１０周年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。また、平素から医療・福祉分野において、作業療法士の皆様のたゆまぬご努力により多くの皆様の生活支援をしていただいておりますことに衷心より感謝と敬意を表します。

さて、高齢化率48%を超える竹田市において、加齢による身体的機能低下や認知などにより、当たり前と思っていた暮らしが難しくなるケースが見受けられます。行政や各種関係組織が連携し、住み慣れた地域で豊かに暮らしていくためにも、幅広い領域で暮らしやすさを取り戻す「作業療法」の重要性がますます高まっていることは言うまでもありません。

私自身も大分県作業療法士連盟の研修会に幾度も参加し、学ばせていただきましたが、皆様のネットワークにより、高度で専門性のスキルが養われることで、社会のニーズに応え、社会のあらゆる場所で皆様がご活躍され、人々がより安心で豊かな生活を守り育んでいただいていると確信しております。

しかしながら、我が国も少子高齢化・人口減少という大きな課題を抱え、今まで以上に社会の要請が多様化すると考えられることから、今後とも暮らしに不安のある方々にこれまで以上に寄り添っていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、ご参集の皆様のご健勝とご活躍、大分県作業療法士連盟のますますのご発展を念願申し上げ、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

大分県作業療法士連盟10周年記念誌の発行によせて

『さらに一歩前へ!』

大分県議会議員　吉竹　悟

このたび、大分県作業療法士連盟が創設10周年を迎え、その足跡である記念誌が発行されますことを心よりお慶び申しあげます。また、関係者のみなさまにおかれましては、各方面で多大なるご労苦があったこととお察しいたします。

さて、顧りみれば「大分県作業療法士会」の発足から40年の月日が流れました。この間に日本経済は飛躍的な発展と拡大の一途をたどってきました。同時に作業療法の分野においてもまた幾多の課題を抱えながらも社会のニーズに応え、地域に暮らす子どもから高齢者までが健康で安心に暮らせるよう、リハビリテーションの専門職として大きな役割を果たしてこられました。貴連盟の時代に適応した積極的な活動の展開により、児童の発達障害の改善や高齢者の認知症緩和など、県民に寄り添う姿は多くの人々に感謝され浸透してきたと確信しております。

近年の医療技術や薬剤の進歩は目を見張るものがありますが、人生100年時代を迎えた今、術後、退院後のケアと医療が一体となってこそ、真に健康寿命を伸ばせることとなります。

したがって、住み慣れた地域で安心して暮らし、社会参加を継続するためには、作業療法士のみなさんの役割と使命は極めて大きく、今後は従前の専門的技術・手法に加えて更なる研究と努力が求められることでしょう。どうか、作業療法士という職業に自信を持って、県民の健康な未来のためにたゆまぬ研鎖と努力を重ねながら、常に新たな一歩を踏み出していただけますよう期待を込めてお願い申し上げます。

結びに、この記念誌発行を一つの契機として、貴連盟の更なる飛躍とすべての会員のみなさまのご活躍を祈念して10周年のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞

大分県議会議員　小嶋　秀行

作業療法士連盟結成10周年誠におめでとうございます。心からお祝いを申し上げます。

社会生活が多様化・複雑化する今日、皆様方には、最も生活の質を向上させる技術を有し、リハビリテーションを必要とされる方々の自立した生活を支援する専門職としての役割があり、ますます重要であります。それだけに、保健医療福祉等の領域における皆さん方の地位向上や権利擁護に関する課題解決が求められます。

実は、そのために政治がどのように役割を果たすか、この点、政治連盟を組織した意義は大変大きく、今後の活動の充実が期待されます。

私も、国や県における課題解決にむけ連携を継続し、貴政治連盟の更なる発展に向けた協力関係を充実してまいりたいと考えております。

結びに、貴政治連盟の益々のご発展と会員各位のご健勝・ご活躍を祈念申し上げ、結成10周年に際してのご挨拶といたします。

発達に障がいや遅れを持つ子どもたちへの支援を

大分県議会議員　**馬場　林**

大分県作業療法士連盟が今年で創立十年を迎えられて、大変おめでとうございます。

本連盟は、保険医療福祉等の領域において、作業療法が大分県民の生活の維持向上に寄与するため、大分県作業療法士協会と全面的に協力し、活動する政治団体として設立されたと伺いました。

少子高齢化そして人口減少の中で、それぞれの地域でその特性に応じた地域包括システムを創り上げることが必要となっています。

また、子どもたちが健やかに生育していくためには、それぞれの子どもたちにとって必要な支援を継続的に提供することも不可欠であります。これからも、発達に障がいや遅れを持つ子どもたちへ、日常生活の動きや集団行動を通して、家庭や地域・教育関係者と連携し、それぞれの子ども達がその人らしく、いきいきと生活できるよう支援・指導されていくことを願います。

大分県作業療法士連盟のますますのご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げまして、お祝いの言葉と致します。

10周年を祝して

大分県議会議員　**森　誠一**

大分県作業療法士連盟設立10周年を心からお喜び申し上げます。皆様には、作業療法を通じて県民の健康と心豊かな生活のため日々ご尽力をいただいております事に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

昨年開催された東京2020パラリンピックにおけるパラアスリートの活躍の裏側には、身体面のみならず精神面において、選手に寄り添いサポートして下さった作業療法士の先生方の沢山のご尽力がありました。情報通信技術などがいかに発達したとしても、他に置き換えることのできない作業療法を担う先生方の技術が、社会の中でもっともっと活かされる環境づくり仕組みづくりが必要であると考えます。そのために、関連諸制度の改正・改善など皆さまと一緒になって取り組んでまいりたいと存じます。今後とも色々なご提言やご指導を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

祝　辞

大分市議会議員　**藤田　敬治**

大分県作業療法士連盟の創立１０周年を、心よりお慶び申し上げます。２０１２年の発足以来、県民・市民の健康的な生活の維持向上に、多大な貢献をされてこられた関係各位に心から敬意を表します。

さて、急速に進展する少子高齢化や人口減少社会の到来とともに、コロナ禍により、社会構造が大きく変化している中、高齢者、障がい者や子どもなどすべての人々が、高め合うことができる「地域共生社会の実現」が求められています。

このような中、貴連盟は、作業療法士の政治意識の高揚を図り、リハビリテーションの立場から、政策提言等を行い、保険、医療、福祉の発展及び充実に寄与いただいております。

これからも、研修会等を通じて研鑽に励まれ、専門職として倫理観を持って広く社会に貢献していただきますようお願い申し上げます。

結びに、大分県作業療法士連盟の、益々のご発展をご祈念申し上げてご挨拶とさせて頂きます。

「全国の先駆者として迎えた発足10周年を祝して」

大分市議会議員　**衛藤　延洋**

大分県作業療法士連盟が発足 10 周年を迎えられ、ここに記念誌を発行されますことに心よりご祝詞を申し上げます。

貴連盟が全国に先駆けて大分の地で発足して爾来、大分県作業療法協会と共にリハビリテーションに関する医学の発展と知識の普及や、学術的事業を通じて、大分県下の医療、介護、社会福祉の充実に寄与されてこられたことに深く敬意を表します。

また、会員の社会的地位向上の実現を目指し、政治活動を国政に限らず、地方議会にも目を向けて頂き、組織のない草の根の選挙を戦う私の初陣からご支援を賜りましたことに深く感謝を申し上げます。

今後とも、少子高齢社会に有用な専門職として、また、大分県保健医療施策推進のリーダーとして、地域生活の充実に向けた政策提言を担って頂けることをご期待申し上げますとともに、私も微力ではありますが、地方政治の場から皆様とともに活動を前進させることをお誓い申し上げます。

結びに、10 周年という節目の年にあたり、貴連盟のさらなる発展と会員皆様のご健勝を心から祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝　辞

大分市議会議員　岩川　義枝

大分県作業療法士連盟１０周年記念誠におめでとうございます。

荒木会長様を初め会員の皆様には県民の健康的な生活の維持向上に向け日々邁進されご尽力なさっておられるお姿に心から敬意を表します。

さて、日本は皆様もご存知の通り高齢者人口が増え続け、さらに、訓練を必要とするお子様の数も年々増加しております。

私事ではありますが、長女が自閉症という障がいがあり感覚統合療法や専門的な訓練を長期にわたり繰り返す中日常生活でできることも増え２次障害も起こすことなく、おかげで今は平穏な日々です。本当に皆様に感謝しております。今後さらに作業療法士は必要とされ期待される人財だと思います。私も大分市の市議という立場から、皆様がより輝き活躍できますようにしっかりと現場のリアルな声を聴き　政治に反映できますよう全力で活動してまいります。

結びに大分県作業療法士連盟様のますますのご発展と会員の皆様のご活躍ご多幸を祈念致しましてお祝いのことばとさせて頂きます。

『大分県作業療法士連盟10周年を祝う』

臼杵市議会議員　大塚　州章

このたびは大分県作業療法士連盟 10 周年を迎えるにあたりお祝いを申し上げますとともに、大分県民の健康と介護予防にご尽力いただき地域のメディカルスタッフの一員としてご活躍を心より感謝申し上げます。

また荒木会長の元、役員の方々及びスタッフになられた方々が、会員の諸氏からの医療や介護に対する課題や政策を集め患者様利用者のためによりよく制度を改善していくことを目的とし、地域の医療や介護にご尽力いただいていることに改めて感謝申し上げる次第です。

コロナ禍の中で２年半という時間が経過し、第７波まで来る事は誰も予測できなかったと思います。通院制限などにより、フレイル廃用症候の問題が起こり、通常業務に加えて更に新たな課題が生じていると思います。

地域の議員として皆様の現場で起こっている諸課題に対してのご意見ご提案を頂くことで、より良い市民生活が送れるよう共に尽力して参りたいと思います。

これからの会員の皆様のご活躍と連盟のご発展をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

祝　設立10周年

佐伯市議会　副議長　冨松　万平

大分県作業療法士連盟が設立10周年を迎えられましたことに心からお慶び申し上げます。

貴連盟は設立以来、リハビリテーションの立場から県民の保険・医療・福祉の発展及び充実に大きく寄与してこられました。

医療畑出身ではない私にとって、地域医療の発展に対する活動を認めていただき、ご支援いただけていることは大変心強く思っているところです。

現在、コロナウイルスの流行をはじめ２０３０年問題やDX化等、世の中が多様な問題に直面しています。そのような中、超高齢社会を迎えるにあたり貴協会の活動は今後、益々重要になってくることは必至です。

地方自治法では議員個人にではなく議会に権限を与えています。その議会に対し、貴協会が専門家の立場から見える、重要かつ具体的な提言をして頂けるような活動を期待しています。

結びに、大分県作業療法士連盟の益々のご発展と会員皆様方のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

祝　辞

由布市議会議員　加藤　幸雄

大分県作業療法士連盟10周年おめでとうございます。平素より格別のご支援をいただき誠にありがとうございます。

さて、ここ２，３年はコロナ禍の中、皆様方には今までにないご苦労をしながら、医療･介護等にご尽力いただき、高齢者、身障者を始め、介助の必要な方は大変助かっています。頭が下がります。皆様方のおかげで庶民は安心して日々を送ることが出来ています。

近年は自治体や小学校等にも支援の場を広げてご活躍されているとお聞きしています。素晴らしいことです。

作業療法士は日常生活に関わることが多いと思います。高齢者・身障者は家庭でいろんな日常生活が出来る喜びを感じながら治療や訓練を行っています。その手助けは大変だろうと推測いたします。

皆様方におかれましては、「まず自分が健康である。」ことが非常に大切です。「早寝・早起き・朝ごはん」で元気に過ごされ、庶民の手となり、足となり、ご指導をお願いいたします。

大分県作業療法士連盟の今後のご活躍と発展を祈念いたします。

すべての人に健康と日常を

豊後大野市議会議員　佐藤　昭生

大分県作業療法士連盟発足10周年、誠におめでとうございます。皆様とは、足立信也参議院議員の秘書として2010年からの長いお付き合いとなり、連盟設立の準備段階では微力ではありますが若干のご加勢をさせて頂きました。私事で恐縮ですが、昨年の４月に豊後大野市議会議員となり、昨年の９月議会において「学童保育と作業療法士の連携事業について」質問し、市執行部から「3年間の事業の成果を検証し、児童の健やかな成長の支援となるよう適切な事業実施に努め、継続して取り組んでまいりたい。」との答弁があり、継続事業となりました。

作業療法士の皆様は、医療や福祉、介護をはじめ、教育や保健、職業関連領域など様々な場所で活躍されていることに、あらためて敬意を表します。今後益々のご活躍をお祈り申し上げ、大分県作業療法士連盟の充実と発展を願い、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

お祝いのご挨拶

大分県理学療法士連盟
会長　石丸　知二

大分県作業療法士連盟設立10周年おめでとうございます。貴連盟の国政、県政・市政に関わる幅広い政治活動や選挙運動、会長をはじめとする執行部の柔軟な発想と実行力を備えた会の運営にはいつも感銘を受けています。

また、先般行われました参議院選挙全国比例区において多大なご協力に深く感謝申し上げます。結果は想定外となりました。

療法士を取り巻く課題や問題点の中には国政レベルで解決策を見出さなくてはならないものも多いです。ご存じの通り療法士の大多数は医療保険では診療報酬・介護保険では介護報酬に影響を受ける職場で働いています。各々の報酬の改定時期には多くの施設責任者が前情報を得ようとセンシティブに動き、結果に一喜一憂する光景は見たことあるでしょう。我々の思いが反映されない、待つだけの状況は変えていかなくてはなりません。残念ながら療法士の国会議員は現在いません。今後３年間で療法士がどのような状況下に置かれるか不安な面もございますが、我々は活動を止めるわけにはいきません。

療法士の働きが国民の健康維持、回復に寄与する事、そのために個々が研鑽を継続することを大前提とし、その上で連盟は療法士の思いを直接届ける国会議員の存在が必要不可欠であることを継続して伝えなければなりません。

そして基盤となる療法士の政治活動、連盟の役割、活動意義について理解して頂けるように作業療法士連盟・理学療法士連盟が協力し、そこに言語聴覚士さんにも参加いただき一致団結して邁進いたしましょう。

結びに、大分県作業療法士連盟のますますの御発展と、関係の皆様の一層の御活躍を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

10 YEAR ANNIVERSARY

Oita Occupational Therapist Federation

連盟10年史

2012 年　会員数 217 名		活　　動
2 月 5 日	総会	大分県作業療法士連盟設立総会
3 月 22 日	広報活動	連盟ニュース第1号発行
5 月 11 日	選挙関連活動	【各政党への挨拶回り】 民主党大分県総支部連合会 自由民主党大分県支部連合会 社民党大分県連合
5 月 24 日	意見交換会	研修会「政治資金規正法を理解しよう」 （連盟幹事の勉強会） 講師：佐藤 昭生 氏
6 月 3 日	入会手続き	大分県作業療法協会新卒者研修会などでの入会案内活動
6 月 10 日	会議	第一回役員会
6 月 21 日	支部活動 調査活動	支部連絡交流会（大分県作業療法協会と共同） 大分県作業療法協会員対象アンケート調査
8 月 19 日	調査活動	一般県民対象アンケート調査
9 月 19 日	研修会	「県議会における条例の決まり方を知ろう」 （第 1 回全体研修会） 講師：衛藤 博文 氏　参加者：43 名
11 月 26 日	選挙関連活動	民主党より選挙応援依頼
12 月　5 日	選挙関連活動	吉良 州司 氏、横光 克彦 氏へ推薦状交付
	選挙関連活動	吉良 州司 氏の開票場への参加
	広報活動	連盟ニュース号外発行

2013 年　会員数：290 名		活　　動
2 月 8 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
2 月 18 日	広報活動	連盟ニュース第 2 号発行 連盟グッズ（クリアファイル）作成・販売
2 月 24 日	選挙関連活動	大分市議会議員応援活動 (堀 よしのり 氏、倉掛 まさひろ 氏、早川 和人 氏)
3 月 3 日	広報活動	ホームページ運用開始
3 月 10 日	総会 研修会	第一回定期総会 引き落とし手数料会員負担開始 第二回全体研修会（地域を変える力～作業療法士と議員それぞれの視点から～）講師：北九州市市議会議員 中村 義雄 氏）参加者：50 名
3 月 24 日	選挙関連活動	民主党大分県連第 17 回定期大会参加
5 月 17 日	意見交換会	堀 よりのり 氏と意見交換会

6 月～ 7 月	選挙関連活動	『山口 かずゆき 氏』衆議院議員選挙応援活動 ① 大分県作業療法協会・大分県作業療法士連盟の支部連絡交流会にて選挙説明 ② 推薦状の提出 ③ ネット選挙 ④ 個人応援カード 合計 238 部（約 1,000 名の協力者）⇒日本作業療法士連盟へ郵送 ⑤ 電話連絡 ⑥ 個人演説会への参加
8 月 1 日	広報活動	連盟ニュース第 3 号発行
8 月 28 日	意見交換会	倉掛 まさひろ 氏と意見交換会
12 月 1 日	研修会	第3回全体研修会 （私たちの願い！健康県おおいた 講師：土居 昌弘 氏・藤田 敬治 氏） 調査部が行ったアンケート結果を活用

2014 年　会員数 :371 名		活　　動
2 月 3 日	広報活動	連盟の活動状況報告パネル（1年の軌跡）作成
2 月 9 日	選挙関連活動	日本作業療法士連盟総会への参加
3 月 23 日	総会	定時総会 場所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ「アイネス」交通費規定作成 会議費規定作成
3 月 23 日	研修会	第 4 回全体研修会 「政治力がなぜ必要なのか？」～今の私達に出来ること、すべきこと！～ 講師：川本 愛一郎 氏 参加者 48 名
5 月 14 日	広報活動	連盟ニュース第 4 号発行 連盟グッズ（エコバック）作成・販売
5 月 21 日	意見交換会	堀 嘉徳 氏（大分市議会議員）と意見交換会
7 月 17 日～ 9 月 6 日	調査活動	アンケートの作成、集計 内 容：診療報酬改定後の作業療法士の業務内容の変更等について 共 催：大分県作業療法協会
9 月 9 日	広報活動	号外の発行（山口和之 氏への応援の軌跡）
9 月 10 日	意見交換会	馬場 林 氏（大分県議会議員）と意見交換会
11 月 18 日	意見交換会	堤 智通 氏（大分市議会議員）と意見交換会
11 月～ 12 月	選挙関連活動	「吉良 州司 氏」第 47 回衆議院議員総選挙関連報告事項 ⑴推薦状の交付、政策協定の締結 ⑵出陣式への参加 ⑶個人演説会への参加 ⑷大分県作業療法協会・連盟に対する説明会 ⑸電話連絡の実施 対象 61 施設 285 名 ⑹開票見守り会への参加 ⑺ホームページやフェイスブックでのネット選挙
12 月 14 日	調査活動	アンケート結果の報告

2015 年　会員数 :411 名		活　　動
1 月 19 日	役員会	役員会 場所：大分県作業療法協会ビル
1 月 28 日	広報活動	連盟ニュース第 5 号発行 連盟グッズ（T シャツ）作成・販売
2 月 22 日	総会 研修会	総会・全体研修会 テーマ：作業療法士の有効活用に関する協定への取り組みを問う 講　師：参議院議員　山口　和之 氏 参加者：48 名
3 月 8 日	研修会	制度対策研修会（大分県作業療法協会との共催） ①テーマ：介護報酬改定から OT に求められるものについて 講　師：佐藤 孝臣 氏 (株式会社ライフリー) 参加者：73 名
3 月～4月	選挙関連活動	**「広瀬勝貞氏」大分県知事選挙関連報告事項** ⑴推薦状の交付 ⑵個人演説会への参加（3ヶ所） ⑶会員への広報 　大分県作業療法協会連絡網により FAX、メールにて案内 ⑷開票見守り会への参加 ⑸ホームページ ⑹ Facebook ページにて応援活動 ⑺祝電の発信 **「椋野美智子氏」大分市長選挙関連報告事項** ⑴幹事との意見交換会 ⑵応援カード 　署名数：189 名 ⑶会員への広報 　大分県作業療法協会連絡網により FAX、メールにて案内 ⑷推薦状の交付 ⑸出陣式への参加 ⑹大分県作業療法協会・大分県作業療法士連盟に対する説明会 ⑺個人演説会への参加（4ヶ所） ⑻電話連絡の実施 　対　象：285 名 ⑼開票見守り会への参加 ⑽ホームページ 　選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 　会員へホームページの案内を実施 ⑾ Facebook ページにて応援活動 **大分県議会議員選挙関連報告事項** 応援実施をした大分県議会議員 候補者名：土居 昌弘 氏、馬場 林 氏、藤田 正道 氏、小嶋 秀行 氏 ⑴推薦状の交付 　①候補者：土居　昌弘　氏　②推薦者：馬場　林 氏 ⑵出陣式への参加　候補者：土居　昌弘 氏 ⑶会員への広報 　大分県作業療法協会連絡網により FAX、メールにて案内 ⑷ホームページ 　選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 　会員へホームページの案内を実施 ⑸ Facebook ページにて応援活動 ⑹祝電の発信 　土居 昌弘 氏、馬場 林 氏、藤田 正道 氏、小嶋 秀行 氏

6 月 30 日	広報活動	連盟ニュース第 6 号発行
7 月 22 日	意見交換会	議　員：大分市議会議員　堤　智通 氏 場　所：大分県作業療法協会ビル 内　容：地域包括ケアシステムについて
9 月 28 日	研修会	大分県精神科リハビリテーション研究会との合同研修会 内　容：就労支援について 講　師：智泉福祉製菓専門学校　森崎　大輔氏 参加者：28 名
11 月 19 日	意見交換会	議　員：大分県議会議員　土居　昌弘 氏 場　所：大分県作業療法協会ビル 内　容：精神障害者の就労支援について
12 月 20 日	研修会	制度対策研修会（大分県作業療法協会との共催） ②テーマ：介護報酬新加算算定の現状から考える 内　容：シンポジウム「各施設の新加算算定への取り組みと現状」 シンポジスト：大塚 千枝（介護老人保健施設 サンテラスながとみ） 平野 政治（明和記念病院） 谷口 理恵（介護老人保健施設 大分豊寿苑） コーディネーター：日隈 武治（大分リハビリテーション専門学校） 講義「制度の改定を受けて、今後、作業療法士としてすべきこと」 講　師：日隈 武治（大分リハビリテーション専門学校） 参加者：30 名

2016 年　会員数 :445 名		活　　動
1 月 24 日	広報活動	連盟の活動状況報告パネル（1年の軌跡）作成 第 19 回大分県作業療法学会会場にて掲示
2 月 3 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
2 月 21 日	総会 選挙関連活動	通常総会 場所：大分市コンパルホール　400 会議室 足立　信也 氏へ推薦状交付
4 月～ 7 月	選挙関連活動	**第 24 回参議院議員通常選挙における「足立信也氏」の応援** ⑴法定ハガキの協力 枚　数：600 枚 ⑵会員への広報 大分県作業療法協会連絡網により FAX、メールにて案内 ⑶総合選対事務所開きへの参加 場　所：足立信也総合選対事務所 内　容：為書の交付 ⑷危機突破集会への参加 ⑸必勝祈願祭・出陣式への参加 ⑹個人演説会への参加（6ヶ所） ⑺電話連絡の実施 対　象：大分市・別府市の施設　他の支部は支部連絡網を利用 ⑻開票見守り会への参加 ⑼ホームページ 選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 会員へホームページの案内を実施 ⑽ Facebook ページにて応援活動 ⑾祝電の発信

4 月～ 7 月	選挙関連活動	**第 24 回参議院議員通常選挙における「小川克巳氏」の応援** ⑴推薦状の交付 ⑵「小川かつみ氏を囲む大分の会」発会セレモニー・第 1 回職能研修会への参加 内　容：政策協定締結 ⑶会員への広報 大分県作業療法協会連絡網によりFAX、メールにて案内 ⑷応援カードの協力 署名者：597 名 ⑸ホームページ 選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 会員へホームページの案内を実施 ⑹ Facebook ページにて応援活動 ⑺祝電の発信
6 月 14 日	勉強会	幹事勉強会 内　容：市議会議員選挙について 講　師：佐藤 昭生 氏（足立 信也 秘書）
8 月 2 日	意見交換会	中村義雄　北九州市議会議員（作業療法士）との意見交換 内　容：市議会議員選挙について
9 月	広報活動	連盟ニュース第 7 号発行 連盟グッズ（クリアファイル第2弾）作成・販売
10 月 24 日	勉強会	場　所：（株）シダー　2F 内　容：市議会議員選挙について 講　師：佐藤 稔 氏（中村義雄選挙対策本部長）
11 月 24 日	役員会	役員会 場所：大分県作業療法協会ビル

■活動期　後期：2017 ～ 2021

2017 年　会員数 :520 名		活　　動
1 ～ 4 月	選挙関連活動	**大分市議会議員選挙応援活動** （衛藤 延洋 氏、藤田 敬治 氏、堤 智通 氏、富松 万平 氏、首藤 勝次 氏、吉竹 悟 氏、橋本 祐輔 氏、工藤 友生 氏、野田 洋二氏） ①会員への広報　ⓐ電話連絡活動 ⓑホームページ選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 会員へホームページの案内を実施 ⓒ Facebook ページにて応援活動 ②選挙事務所手伝い ③必勝祈願会神事・出陣式への参加 ④個人演説会への参加 ⑤開票見守り会への参加 ⑥当選者への祝電の発信　等
2 月 3 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
3 月 6 日	意見交換会	大分市議会議員　衛藤 延洋 氏との意見交換 内　容：大分市の地域包括ケアシステムについて
3 月	総会	総会 場　所：大分市コンパルホール　400 会議室
	就労支援研修会	『作業療法士の強みを生かす就労支援』 講師：金川　善衛 氏　参加者：103 名

6 月	意見交換会	大分市議会議員　藤田 敬治 氏との意見交換 内　容：大分市の地域包括ケアシステムについて
6 月 4 日	入会案内活動	新卒者研修会（(公社) 大分県作業療法協会共催）
7 月～ 8 月	支部活動	支部連絡交流会（(公社) 大分県作業療法協会共催）
10 月	選挙関連活動	**由布市議会議員選挙応援活動（加藤 幸雄氏）** **第 48 回衆議院議員総選挙応援活動（吉良 州司氏･横光 克彦氏）** ①会員への広報　ⓐ電話連絡活動 　ⓑホームページ　選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 　　会員へホームページの案内を実施 　ⓒ Facebook ページにて応援活動 ②選挙事務所手伝い ③必勝祈願会神事・出陣式への参加 ④個人演説会への参加 ⑤開票見守り会への参加 ⑥当選者への祝電の発信　等
11 月 15 日	意見交換会	衆議院議員　吉良 州司 氏との意見交換 内　容：日本の介護医療及び経済・子育て対策等について
12 月 17 日	制度対策研修会	『医療介護改革　国から地域へ』 ～制度改正・報酬改定の動向から作業療法士に求められる行動を考える ～講師：小川 克巳 氏（理学療法士　参議院議員） 杉原素子氏（作業療法士　日本作業療法士連盟会長）参加者：133 名

2018 年　会員数 :562 名		活　　動
1 月	制度対策研修会 ((公社) 大分県作業療法協会共催）	「医療政策等の理解と、これからの作業療法士に求められること」 ～先輩 OT に聞きたい！制度って？～ 講　師：荒木 良夫（大分県作業療法士連盟 会長） 参加者：53 名
2 月		山口県作業療法士連盟 5 周年記念式典参加・祝電発信
2 月 5 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
3 月 17 日	総会	総会　場所：コンパルホール　視聴覚室
	制度対策研修会	テーマ①説明『作業療法士に関わる報酬改定の概要』 講　師：伊東 竜太郎（作業療法士） テーマ②診療報酬・介護報酬改定 その後の狙い 講　師：足立 信也 参議院議員 (医師） 参加者：100 名
4 月	選挙関連活動	**臼杵市議会議員選挙応援活動（大塚 州章氏）** ①推薦状の交付 ②会員への広報 　ⓐ電話連絡活動 　ⓑホームページ 　　選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） 　　会員へホームページの案内を実施 　ⓒ Facebook ページにて応援活動 ③当選後に祝福の連絡 ④祝電の発信
4 月 7 日	意見交換会	大塚 州章 臼杵市議会議員 候補との意見交換会 内　容：臼杵市の医療、福祉の現状について

4 月 7 日	意見交換会	大塚 州章 臼杵市議会議員 候補との意見交換会 内　容：臼杵市の医療、福祉の現状について
3 月～ 10 月	議員と会員の交流会	（足立 信也氏、衛藤 延洋氏、高倉 和一郎氏、冨松 万平氏、土居 昌弘氏、吉竹 悟氏、藤田 敬治氏、大塚 州章氏、堀 嘉徳氏、加藤 幸雄氏）
6 月	広報活動	連盟ニュース第9号の発行・ポスター作製・印刷物品：冊子「まんが作業療法物語」印刷部数：1,000 部（第1刷 500 部、第 2 刷 500 部）
6 月 3 日	入会案内活動	新卒者研修会（(公社) 大分県作業療法協会共催）
6 月～ 7 月	支部活動	支部連絡交流会・新入会員歓迎会（(公社) 大分県作業療法協会共催）
9 月 21 日	意見交換会	竹田市議会議員 吉竹 悟 氏との意見交換会 内　容：リハ職の有効活用について
12 月	選挙関連活動	第 25 回参議院議員通常選挙　田中 昌史氏後援会応援個人カード協力（署名者：180 名）
	調査活動	医療・介護・福祉等の作業療法に関する制度の動向調査、県内選挙に関する調査、社会保障制度改定に関する調査、要望書・請願書作成に関する調査

2019 年　会員数：611 名		活　　動
1 月	広報活動	ポスター作製・連盟グッズ作製（タオル）
2 月 8 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
3 月 4 日	出張講座	養成校出張講座 場　所：大分リハビリテーション専門学校 藤華医療技術専門学校
3 月 15 日	総会	総会　場所：大分県作業療法協会ビル
3 月～ 4 月	選挙関連活動	**〇大分県知事選挙** 『広瀬　勝貞　候補』 ①　推薦状の交付　②　ファイナル集会への参加　③　祝電の発信 **〇大分市長選挙** 『佐藤 樹一郎　候補』 ①　推薦状の交付　②　祝電の発信 **〇大分県議会選挙における下記議員の応援** 『小嶋 秀行　候補』 ①　推薦状の交付　②　決起集会への参加　③　ファイナル集会への参加 『土居　昌弘　候補』 ①　推薦状の交付　②　出陣式の参加 『森 誠一　候補』 ①　推薦状の交付　②　出陣式の参加 『馬場 林　候補』 ①　推薦状の交付 『濱田 洋　候補』 ①　推薦状の交付 ※統一地方選挙における上記選挙応援活動に加え、以下の活動を全候補に実施。 ①　会員への広報会員への広報 ㋐会員への電話連絡及び Line での広報 ㋑ Facebook ページにて応援活動 ㋒ホームページにて応援活動 ・選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） ・会員へホームページの案内を実施 ②　祝電の発信

5 月～ 7 月	選挙関連活動	**第 25 回参議院議員通常選挙における選挙応援活動** 『田中 まさし 候補』の応援 ①推薦状の交付 ②「田中まさし候補の政治活動応援説明会」の開催 概　要：（公社）大分県作業療法協会・大分県作業療法士連盟共催、支部連絡交流会等にて、田中まさし候補の政治活動応援説明会を実施。 ③紹介カードの記載 期間限定（1 週間）で集めた応援者数：300 名 ④会員への広報 ㋐会員への電話連絡及び Line での広報 ㋑ Facebook ページにて応援活動（選挙期間中 42 回更新） ㋒ホームページにて応援活動 ・選挙期間のみトップページ作成（ネット選挙対応） ・会員へホームページの案内を実施 ⑤他団体主催研修会の会員への案内及び参加 ㋐「理学療法士の施策課題と展望～未来について語ろう～」への参加 主　催：（公社）大分県理学療法士協会主催、 大分県理学療法士連盟後援 ㋑「田中まさし個人演説会」への参加
7 月 1 日 10 月 30 日	議員視察	議員と先進的取り組みを実施している施設の現地視察 （森誠一氏、土居昌弘氏、藤田敬治氏、衛藤延洋氏） ⑴ 施　設：デイサービス　楽 内　容：高齢者への自立支援の取り組みについて ⑵ 施　設：こどもデイサービス　夢色 複合スペース marble 内　容：発達的課題がある児童に対する自立支援の取り組みについて
10 月 6 日	意見交換会	中村よしお北九州市議会議員
8 月～ 10 月	議員と会員の交流会	（土居 昌弘氏、森　誠一氏、吉竹 悟氏、冨松 万平氏、大塚 州章氏、衛藤 延洋氏、小嶋　秀行氏、衛藤 延洋氏、堀 嘉徳氏、加藤 幸雄氏）
	調査活動	医療・介護・福祉等の作業療法に関する制度の動向調査、県内選挙に関する調査、請願書作成に関する調査

2020 年　会員数 :635 名		活　　動
2 月 3 日	役員会	役員会　場所：大分県作業療法協会ビル
2 月 16 日	総会	総会　場所：コンパルホール 400 会議室 ※総会議案書の電子化を実施
	要望書の提示	内　　容：①地域包括支援センターでの作業療法士の積極的活用 ②ひきこもり対策推進事業への作業療法士の積極的活用 ③障害者就労支援現場での作業療法士の積極的活用 ④障害児支援への作業療法士の積極的活用 対象議員：土居　昌弘氏（大分県議会議員） 森　誠一氏（大分県議会議員） 藤田　敬治氏（大分市議会議員） 衛藤　延洋氏（大分市議会議員） 吉竹　悟氏（竹田市議会議員）
	研修会	『討議！これからの地域支援と作業療法』 ～議員と共に考える就労移行・学習支援・高齢者支援～ 講師：二神雅一 氏（創心會代表取締役／日本作業療法士連盟　幹事） コメンテーター：土居　昌弘 氏（大分県議会議員） 森　誠一 氏（大分県議会議員） 藤田　敬治 氏（大分市議会議員） 衛藤　延洋 氏（大分市議会議員）　　参加者：79 名

5 月 10 日	入会案内活動	（公社）大分県作業療法協会共催『新卒者研修会』 オンライン開催
8 月	支部活動	（公社）大分県作業療法協会共催『支部連絡交流会』 オンライン開催
8 月 7 日	制度マイスター養成研修会（新しい風）	対象者：最近起業を行った県内作業療法士 4 名 参加者：6 名（連盟幹事 2 名）
8 月 28 日	議員対象研修会および意見交換会	「大分県の医療・福祉を考える勉強会および意見交会」 講　師：藤田　敬治氏（大分市議会議員） 　　衛藤　延洋氏（大分市議会議員
	意見交換会	大分市議会議員と新卒作業療法士の意見交換会 ～若者の思うこれからの生活と政治～ 講　師：藤田　敬治氏（大分市議会議員） 　　衛藤　延洋氏（大分市議会議員） 対　象：臨床 1 年目の作業療法士
10 月～ 11 月	調査活動	保健・医療・福祉の作業療法に関する制度の動向調査、県内の政治活動に関する調査、介護報酬改定に関する調査、請願書作成に関する調査、新型コロナウイルスに関するアンケート調査
11 月～ 12 月	選挙関連活動	1）候補者との意見交換 ①候補者：佐藤 昭生　豊後大野市市議会議員候補 ②候補者：岩川 義枝　大分市議会議員候補 2）推薦状の交付及び為書きの授与 ①候補者：佐藤 昭生　豊後大野市市議会議員候補 ②候補者：岩川 義枝　大分市議会議員候補 ③候補者：藤田 敬治　大分市議会議員候補 ④候補者：衛藤 延洋　大分市議会議員候補
12 月	広報活動	リーフレットの作成・連盟グッズ作成（タオル、クリアファイル）・選挙関連物品の作成（幟14本、ロールバナー2本） LINE 公式アカウントの作成 連盟ニュース第 10 号発行

2021 年　会員数 :632 名		活　　動
1 月	選挙関連活動	【豊後大野市議会議員選挙】佐藤 昭生氏 事務所開所式への参加
1月 20 日	制度対策研修会	テーマ：コロナ過だからこそ作業療法士にできる事 内容：新型コロナウイルスへの対応と作業療法士の役割について 形態：ZOOM による WEB 研修 主催：(公社) 大分県作業療法協会 後援：大分県作業療法士連盟 参加者：作業療法士 20 人
2 月	選挙関連活動	【竹田市長選挙】土居　昌弘氏　推薦状交付 【大分市議会議員選挙】 ①藤田 敬治氏　出陣式への参加 ②衛藤 延洋氏　出陣式への参加 ③岩川 義枝氏　出陣式への参加・ファイナル集会への参加 応援演説：木山副会長実施

2 月 26 日	役員会	役員会　方法：web 開催
3 月 29 日	制度対策研修会	テーマ：報酬改定の内容と変化 内容：報酬改定に関する説明会 講師：種子田 秀仁　釘宮 慎太郎 形態：ZOOM による WEB 研修 共催：(公社) 大分県作業療法協会 参加者：作業療法士 32 名
4 月	選挙関連活動	【竹田市長選挙】土居　昌弘氏　出陣式への参加 参加者：幹事 3 名　応援演説：荒木会長実施 【豊後大野市議会議員選挙】佐藤 昭生氏 　①出陣式への参加　② Zoom での個人演説会の開催
4 月 13 日	意見交換会	豊後大野市議会議員との意見交換 議員：佐藤昭生氏 内容：コロナ禍における現状と今後について
	意見交換会	大分市議会議員との意見交換 議員：衛藤延洋氏 内容：コロナ禍における医療現場・介護施設の現状 包括支援センターの業務とリハ職の重要性
5 月	選挙関連活動	大分県議会議員選挙：竹田市選挙区補欠選挙　　吉竹　悟氏 　①推薦状交付　②出陣式への参加
5 月 20 日	制度マイスター養成研修会	内容：「政治と作業療法士連盟の活動について」 講師：谷 隆博氏、荒木 良夫 形態：ZOOM による WEB 研修 参加人数：作業療法士 34 名
6 月 6 日	入会案内活動	（公社）大分県作業療法協会共催『新卒者研修会』 オンライン開催
8 月 26 日	制度マイスター養成研修会	内容：制度の変遷から捉えるリハビリテーション（作業療法） 講師：村井 千賀氏 形態：ZOOM による WEB 研修 参加人数：作業療法士 36 名　議員5名
8 月～ 9 月	支部活動	（公社）大分県作業療法協会共催『支部連絡交流会』 オンライン開催
9 月	選挙関連活動	【由布市議会議員選挙】加藤　幸雄氏 推薦状交付
10 月	選挙関連活動	【第 49 回衆議院議員選挙】吉良　州司氏 推薦状交付
	広報活動	インスタグラムの開設
10 月 6 日	議員と先進的取り組みを実施している施設の視察	【大分市議会議員を案内する議員視察】 議員：大分市議会議員：藤田敬冶氏　衛藤延洋氏　　岩川義枝氏 ①内容：大分ダルクの活動内容の紹介 　自立訓練での運営に関しての現状や課題 　薬物依存に対する社会的偏見等直接感じる実情 　施設：大分ドラックアディクションセンター ②内容：ゲーム依存の本人と家族への支援の現状 　重度精神障害者の訪問支援・オープンダイナログの取り組み等 　施設：河村クリニック

11 月 17 日	制度マイスター養成研修会	内　容：「地域共生社会における作業療法士のとるべき行動－作業療法士の力を地域で活かす！」 講師：佐藤 孝臣氏 形態：ZOOM による WEB 研修 参加人数：作業療法士 36 名　医療ソーシャルワーカー1名　議員5名
11 月	議員より作業療法士会員へのメッセージ動画の作成及び会員への紹介	【議員】 竹田市長：土居昌弘氏 大分県議会議員：吉竹悟氏　森誠一氏 大分市議会議員：藤田敬治氏　衛藤延洋氏　岩川義枝氏 佐伯市議会議員：富松万平氏 豊後大野市議会議員：佐藤昭生氏
12 月	選挙関連活動	【令和 4 年度選挙に向けた活動】 候補者：足立信也　参議院議員候補 　①推薦状の交付　②意見交換会 内容：今後の社会保障制度について
	調査活動	保健・医療・福祉の作業療法に関する制度の動向調査、県内の政治活動に関する調査、介護報酬改定に関する調査、請願書等意見書作成に関する調査、新型コロナウイルスに関するアンケート調査
	広報活動	連盟ニュース第 11 号の発行

10 YEAR ANNIVERSARY

Oita Occupational Therapist Federation

連盟事業活動史

▲協会会員へ連盟の説明をする荒木会長

連盟事業活動史

【胎動期】

2010 ～ 2012

2000年代、政権交代など国民の政治に対する関心が高まる中、リハビリテーション専門職のさらなる発展のためには政治的な関りが必要との気運が高まっていた。

地方自治が進められる中、作業療法の発展のための政治団体として、多くの人の思いと行動により、2010年、日本作業療法士連盟設立と同時に大分支部として活動を開始、参議院議員候補足立信也氏の応援を実施。県下6会場を巡り、(社)大分県作業療法協会会員へ選挙応援を依頼する。

2011年には、日本作業療法士連盟の設立と活動紹介とともに、大分県作業療法士連盟設立趣意書を作成し、県下(13会場)を巡り会員に設立趣旨を説明した。その際、設立賛同書に署名していただいた県下作業療法士250名集まった。

2012年2月5日に設立式典を実施。当日は、173名と多くの方が出席。設立式典には、日本作業療法士協会会長 中村春樹氏、日本作業療法士連盟会長 杉原素子氏、同副会長 谷隆博氏・比留間ちづ子氏, 九州ブロック長 座古田孝安氏が駆け付け設立に華を添えていただいた。

▲設立総会・役員

◀（左より）
中村春樹氏（日本作業療法士協会会長）
足立信也議員
杉原素子氏（日本作業療法士連盟会長）

▲2012年(平成24年)2月設立総会

▲設立総会祝賀会

連盟事業活動史

【政治活動 関連活動】

①選挙活動

応援候補者の選定は、単に「与党だから」「〇〇党だから」「〇〇さんからの紹介だから」といった要素は極力除外し『大分県作業療法士連盟』の設立趣意書の考えに賛同していただける議員を選定することとした。議会議事録等より候補者の考えを調査し、意見交換を行い、応援理由を明確にした。また、対等な関係づくりを初期から一貫して心掛け、現在でも、政党に偏りなく関係を持っている。

初期の選挙応援は、一方的に「推薦状」を交付し、応援を行う状況であった。しかし、当連盟の認知度も徐々に高くなり、2017年より、候補者から「推薦申請書」にて当連盟に申請があるようになった。また同年の参議院議員選挙では、候補者と『政策協定』を結び応援を実施した。その後も、必要に応じ政策協定を結びながら応援活動を実施している。

応援方法としては、候補者に事務所開きに間に合わせ「推薦状」「為書き」を交付している。設立当初から個人演説会に積極的に参加し、単に団体名をアピールする幟はなく、「応援しています」と自分たちのメッセージを周囲に表現するようにした。

応援カード集めだけでなく、会員への電話連絡・法定はがきの発送協力等も行った。大分市議会議員の選挙では、選挙事務所に出入りし選挙運動を直接的に手伝った。

衆議院議員候補・大分市長候補等を大分県作業療法協会ビルに招き、個人演説会を行なった。知事選挙、県議会議員選挙、市長選挙、市議会議員選挙など地方選挙にも選挙応援は広がった。

▲ 2016 年　「小川かつみ氏を応援する大分の会」にて

▲ 2014 年　山口かずゆき氏国政報告会にて

▲ 2019 年　田中まさし氏を囲んで

②議員との意見交換

応援活動を実施した議員を中心に「意見交換」を定期的に実施している。設立当初から、（公社）大分県作業療法協会協会ビルに招き実施している。

意見交換の形態は徐々に変化し、情報提供の状況から、議員に具体的に意見する状況となった。この意見交換の内容を議会での質問というかたちへつながった。議会に訴える際、請願・陳情といった方法もあるが、「議員に訴える」方法が現在は最良との判断での実施であった。

その後、2019 年より実際の作業療法場面等に議員を招き、『視察』という形式で意見交換を行っている。直接、作業療法士が行っている「自立支援」の現状は議員にとって非常に興味深い内容であったようである。

最近では、Covit19 感染予防の観点から、Zoom での現地視察・意見交換を実施した。地域で作業療法士が取り組んでいる取り組みを紹介するものだけでなく、経験年数 1 年目の若い作業療法士との将来へ向けた意見交換も実施した。

選挙応援以上に連盟活動の主軸となる活動となっている。

▲ 2018 年　大塚議員と意見交換会

▲ 2016 年　衞藤延洋議員との意見交換会

▲馬場林議員との意見交換会

【議員と会員の交流】　懇親会

設立当初より、大分県作業療法士連盟・(公社) 大分県作業療法協会合同で、県下各支部で新人歓迎会を開催している。2018 年からは、地方議員との関係の深まりもあり、各地域に関連する議員も招き懇親会を開催するようにした。

議員の存在を身近に感じることができ、会員と議員との交流の場となっている。現在、感染予防の観点より自粛しているが社会情勢を鑑み再開予定である。

▲土居昌弘氏との意見交換会・懇親会

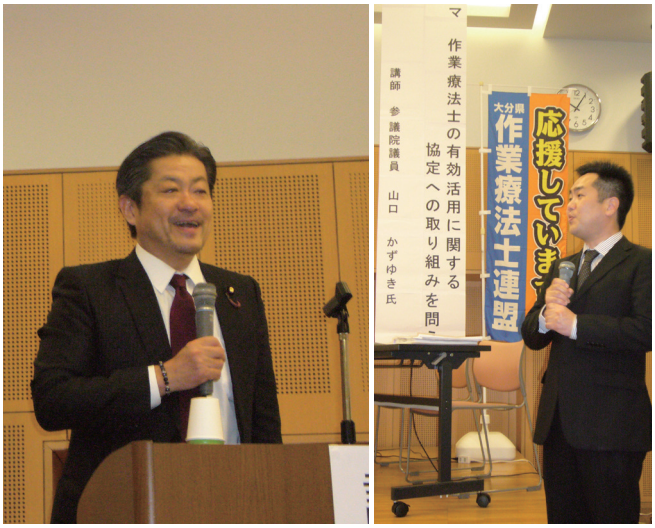
連盟事業活動史

【学術研鑽活動】

当初の「会員向け研修会」の内容は、政治活動の重要性についてなどが、中心であった。これらの基礎的内容は、「支部説明会」で実施する方向へ変更した。会員向け研修会は、作業療法士の可能性を広げる先進的な取り組み内容をテーマとして開催し、議員を参加者として招いた。また、議員が講師やコメンテーターを務める政治色の高い研修会へ大きく変更した。

2013 年には、地域住民のアンケート結果を議員へ投げかける研修会「健康県おおいた」を開催した。地方議員と共に研修会を作り上げた。

2015 年と 2017 年には、政策協定「作業療法士の有効活用に関する協定」を結び応援した参議院議員（理学療法士）2 名とは、議員活動を検証する研修会を実施した。この場は、各議員の活　動を紹介する場となり、会員にとって見えにくい議員の活動が理解でき、応援の気持ちを強くすることが出来た。



▲ 2016 年　参議院議員　山本かずゆき氏を招いての研修会

県内外の作業療法士が先進的に取り組んでいる支援について、会員と議員が共に意見交換する研修会を定期的に開催した。地域の保健・医療・福祉・教育・職業についてともに考える研修会となった。このことが議員の議会発言へとつながっていった。

現在、『制度マスター研修会』と称した、「職能・学術・政治」を深める人材育成研修を実施。参加者は、県協会推薦のメンバーや主体的に参加しているメンバーであり、研修会終了後、連盟活動に積極的に行動できる人材を育成する狙いがある。初年度は、31 名の制度マイスター (基礎コース修了者) を誕生させた。

前後するが、2019 年より 18 歳選挙に対応するように、作業療法士養成校への出張講座等も実施した。

▲2017年　研修会「医療介護制度改革　国から地域へ」

【制度及び政治活動に関する調査活動】

調査活動は、連盟の活動方針に大きく関わる事業であり、連盟発足から今日まで様々な活動に取り組んできた。大きくは、以下3つに関する事業が中心である。

① 議会発言調査

連盟発足当初から行っているのが「議会発言調査」である。議会における議員の発言や議員の活動を調査することで、各議員の考えを理解し、応援する議員選定の裏付けとした。また、選挙応援を行った議員の発言を調査し、その後の活動について意見交換を行う機会に繋げることができた。

② 一般市民・会員向けアンケート調査

2013 年には、大分市の商業施設で、一般市民に「医療・介護・教育」に関するアンケート調査を実施。

2018 年、県内の作業療法士が職場の本体業務以外に地域で関わっている活動を把握し、今後さらに高まってくる地域でのニーズに可能な限り専門職として対応できるよう体制整備の資料とすることを目的に「作業療法士の地域活動への参画に関する実態調査アンケート調査」を実施。現在は、（公社）大分県作業療法協会が、診療報酬改定年度に合わせ3年ごとに継続調査を実施している。

その他、新型コロナウイルス（COVID-19）に関する会員向けのアンケート調査を行い研修会で報告した。

③ 意見交換用調査及び要望書作成

共生社会に向けた作業療法士の活用について、様々な場で活躍する作業療法士の調査や作業療法士の専門性を活かせる事例について調査を行った。これらは議員との意見交換会で調査内容を活用する事やこれらの情報を要望書として議員へ提示した。

▲ 2016 年　新卒者研修会にて

▲ ZOOM を利用してののオンライン意見交換会

連盟事業活動史

【広報関連活動】

広報誌「連盟ニュース」は設立初年度より発行。当初は、A4 サイズ 1 枚両面白黒印刷であった。その後、徐々にページ数も増え、10号からは現在の8ページフルカラーへ変更した。

内容についても、当初は単なる活動報告をする媒体であったが、次第に「読み物」としての充実を図り、『特集』や、インタビュー『こんなところに作業療法士』,『選挙クイズ』など読み応えのある広報媒体となっている。

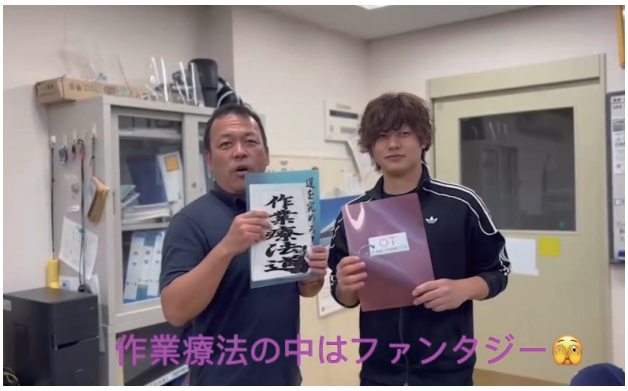
また、「連盟グッズ」を制作しその売り上げを連盟活動の一助とした。第一弾はクリアファイルであった。反響が良く、次第に増やしていった。T シャツやエコバック、タオルなどである。

単に、広報を行うだけでなく、選挙応援用品として、メッセージ性のある幟やロールバナーなども制作した。

2013 年からは広報手段としてニュースやグッズ以外にもインターネット選挙に対応すべく、web サイトや Facebook などの運用も開始した。閲覧者数を増やすためにレイアウトの変更や web サイトの解析など工夫しインターネット選挙での応援活動も行った。また現在では LINE や Instagram など若者にも親しみやすい SNS を利用した広報活動も行っている。

2021 年より YouTube でチャンネルを開設し、「政治をもっと身近に」をテーマに政治活動の重要性の説明を行っている。

また、18歳選挙が始まってから毎年リハビリ養成校向けに選挙啓発ポスターも作成し掲示してもらっている。



▲ SNS を利用した連盟グッズの PR

▲公式 YouTube を開設・配信

▲広報誌「連盟ニュース」

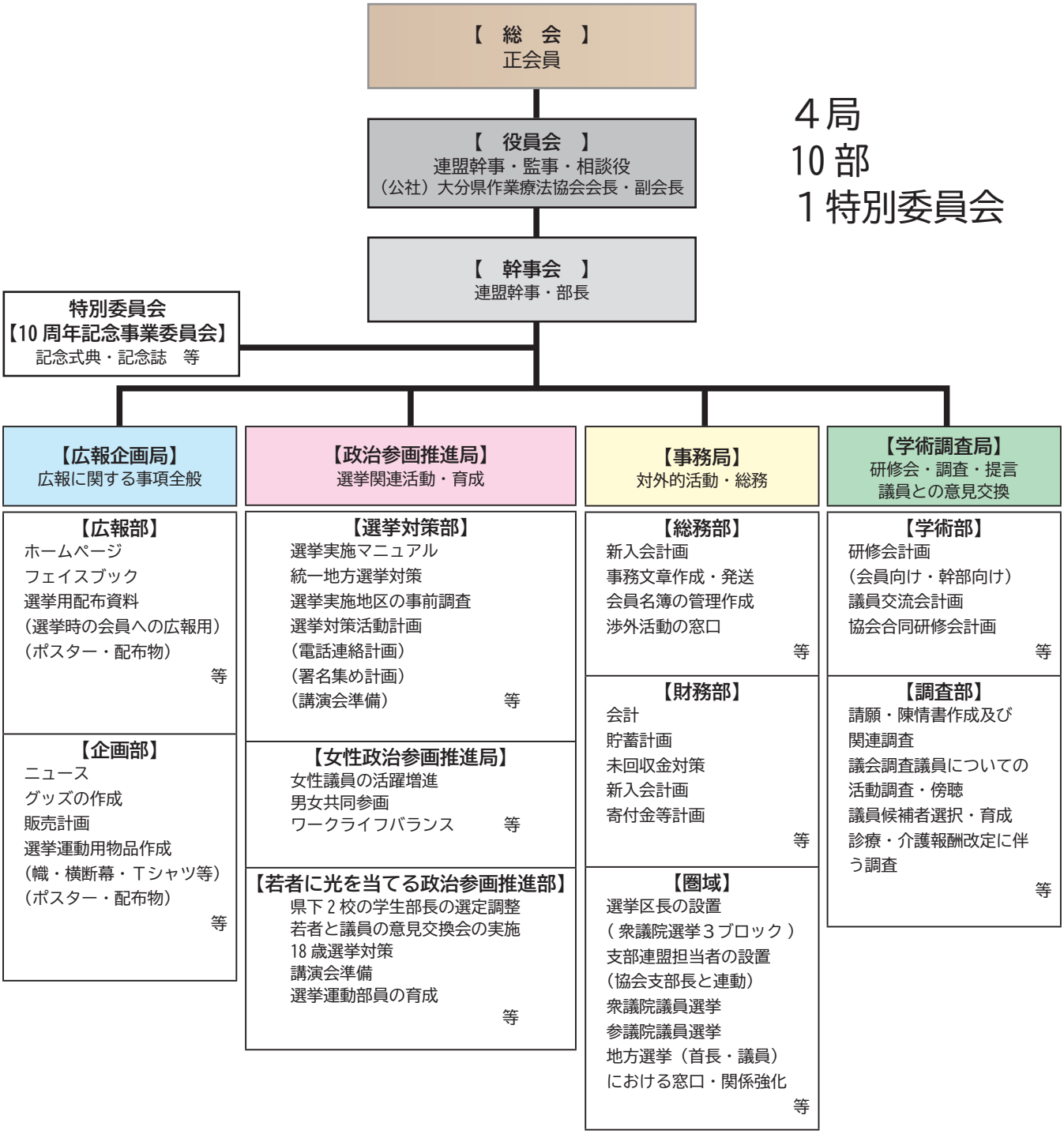
YouTube　Instagram

【組織体制の変遷】

設立当初は、１局３部制での活動開始であった。その後数度の組織変更を繰り返し、現在４局 10 部１特別委員会で活動を行っている。

特に最近では、「若者に光を当てる政治参画推進部」「女性政治参画局」が活動を行なっている。当連盟会員は、若く女性も多い専門職である。これら部局を中心に広報活動や議員との交流に努めている。

2022 年度　大分県作業療法士連盟組織図



平成24年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	尾山　泰宏	宇佐病院
副会長	田中　　学	井野辺府内クリニック
幹　事 (事務局長)	森　　勉	デイサービスセンター楽
幹　事 (会計責任者)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹　事	大塚　千枝	サンテラスながとみ
幹　事	小石　鉄兵	永冨脳神経外科病院
幹　事	鳥越　克志	永冨脳神経外科病院
幹　事	児玉　隆典	デイサービス楽　横尾センター
幹　事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
監　事	佐藤　浩二	湯布院厚生年金病院
監　事	渡邉千鶴子	大分リハビリテーション専門学校
相談役	土岩　美幸	介護保険総合ケアセンター　いずみの園 リハビリセンターいずみ

平成25年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	尾山　泰宏	宇佐病院
副会長	田中　　学	井野辺府内クリニック
幹　事 (事務局長)	森　　勉	デイサービスセンター楽
幹　事 (会計責任者)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹　事	大塚　千枝	サンテラスながとみ
幹　事	小石　鉄兵	永冨脳神経外科病院
幹　事	鳥越　克志	永冨脳神経外科病院
幹　事	児玉　隆典	デイサービス楽　横尾センター
幹　事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
監　事	佐藤　浩二	湯布院厚生年金病院
監　事	渡邉千鶴子	大分リハビリテーション専門学校
相談役	土岩　美幸	介護保険総合ケアセンター　いずみの園 リハビリセンターいずみ

平成26年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	尾山　泰宏	宇佐病院
副会長	田中　　学	井野辺府内クリニック
幹　事 (事務局長)	森　　勉	デイサービスセンター楽
幹　事 (会計責任者)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹　事	大塚　千枝	サンテラスながとみ
幹　事	鳥越　克志	永冨脳神経外科病院
幹　事	児玉　隆典	デイサービス楽　横尾センター
幹　事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹　事	河野　通宏	博愛病院
監　事	佐藤　浩二	湯布院厚生年金病院
監　事	渡邉千鶴子	大分リハビリテーション専門学校
相談役	土岩　美幸	介護保険総合ケアセンター　いずみの園 リハビリセンターいずみ

平成27年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	尾山　泰宏	宇佐病院
副会長	田中　学	井野辺府内クリニック
幹　事 (事務局長)	森　勉	デイサービスセンター楽
幹　事 (会計責任者)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹事	大塚　千枝	サンテラスながとみ
幹事	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹事	山田　祐成	博愛診療所
幹事	小野　広江	訪問看護ステーションいずみ
幹事	伊東　竜太郎	鶴見台病院
監事	佐藤　浩二	大分岡病院
監事	渡邉　千鶴子	大分リハビリテーション専門学校
相談役	土岩　美幸	介護保険総合ケアセンター　いずみの園 リハビリセンターいずみ

平成28年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	尾山　泰宏	杵築オレンジ病院
副会長	田中　　学	井野辺府内クリニック
幹　事 (事務局長)	森　　勉	デイサービスセンター楽
幹　事 (会計責任者)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹　事	木山　千枝	サンテラスながとみ
幹　事	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹　事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹　事	山田　祐成	博愛診療所
幹　事	伊東竜太郎	鶴見台病院
監　事	佐藤　浩二	大分岡病院
監　事	渡邉千鶴子	大分リハビリテーション専門学校

平成29年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長(学術調査局長)	田中　　学	井野辺府内クリニック
副会長(広報企画局長)	木山　千枝	サンテラスながとみ
幹事(事務局長)	森　　勉	デイサービス楽　横尾センター
幹事(財務部長)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹事(選挙対策部長)	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹事(学術部長)	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹事(広報部長)	伊東竜太郎	鶴見台病院
幹事(選挙区部長代表)	山田　祐成	博愛診療所
幹事（企画部担当）	石田　　聡	大分三愛メディカルセンター
幹事(調査部担当)	種子田秀仁	たねだ内科
監　事	佐藤　浩二	大分岡病院
監　事	渡邉千鶴子	大分リハビリテーション専門学校

選挙区部長

中部選挙区部長（衆議院議員選挙1区）	山田　祐成	博愛診療所
南・西部選挙区部長（衆議院議員選挙2区）	眞崎　和人	佐伯の太陽
北部選挙区部長（衆議院議員選挙3区）	尾山　泰宏	上人病院

平成30年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長	田中　　学	いのべ訪問介護ステーション
副会長	木山　千枝	サンテラスながとみ
幹事(事務局長)	森　　勉	デイサービス楽　横尾センター
幹事(財務部長)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹　事	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹　事	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹　事	山田　祐成	博愛診療所
幹　事	伊東竜太郎	鶴見台病院
幹　事	石田　　聡	大分三愛メディカルセンター
幹　事	種子田秀仁	たねだ内科
監　事	佐藤　浩二	大分岡病院
監　事	渡邉千鶴子	浜脇記念病院

選挙区部長

中部選挙区部長（衆議院議員選挙1区）	山田　祐成	博愛診療所
南･西部選挙区部長（衆議院議員選挙2区）	眞崎　和人	佐伯の太陽
北部選挙区部長（衆議院議員選挙3区）	尾山　泰宏	上人病院

平成31年度　役員名簿		
会　長	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長(学術調査局長)	田中　　学	いのべ訪問介護ステーション
副会長(広報企画局長)	木山　千枝	大分豊寿苑
副会長(選挙対策局長)	種子田秀仁	たねだ内科
幹事(事務局長)	森　　勉	デイサービス楽　横尾センター
幹事(財務部長)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹事(選挙対策部長)	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹事(若者に光を当てる制度対策部長)	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹事(選挙区部長)	山田　祐成	博愛診療所
幹事(企画部長)	伊東竜太郎	鶴見台病院
幹事(広報部長)	石田　　聡	大分三愛メディカルセンター
幹事(学術部長)	寺　真理子	大分中村病院
幹事(調査部長)	釘宮慎太郎	就労継続支援B型事業所 GreenFlash
監　事	佐藤　浩二	大分岡病院
監　事	渡邉千鶴子	浜脇記念病院

令和2年度　役員名簿		
会長(選挙対策局長:兼任)	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長(学術調査局長)	田中　　学	いのべ訪問介護ステーション
副会長(広報企画局長)	木山　千枝	大分豊寿苑
幹事(事務局長)	森　　勉	デイサービス楽　横尾センター
幹事(財務部長)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹事(選挙対策部長)	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹事(若者に光を当てる制度対策部長)	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹事(選挙区部長)	山田　祐成	博愛診療所
幹事(企画部長)	伊東竜太郎	鶴見台病院
幹事(広報部長)	調整中	大分三愛メディカルセンター
幹事(学術部長)	寺　真理子	大分中村病院
幹事(調査部長)	釘宮　慎太郎	就労継続支援B型事業所 GreenFlash
監　事	佐藤　浩二	大分岡病院
監　事	渡邉　千鶴子	浜脇記念病院

中部選挙区部長（衆議院議員選挙1区）	山田　祐成	博愛診療所
南･西部選挙区部長（衆議院議員選挙2区）	眞崎　和人	佐伯の太陽
北部選挙区部長（衆議院議員選挙3区）	尾山　泰宏	別府湾腎泌尿器病院

令和3年度　役員名簿		
会長(選挙対策局長:兼任)	荒木　良夫	藤華医療技術専門学校
副会長(学術調査局長)	田中　　学	(有)四季彩
副会長(広報企画局長)	木山　千枝	大分豊寿苑
幹事(事務局長)	森　　勉	デイサービス楽　横尾センター
幹事(財務部長)	小林　幹生	訪問看護ステーションいずみ
幹事(選挙対策部長)	甲斐　裕介	デイサービスセンター楽
幹事(若者に光を当てる制度対策部長)	鳥越　克志	藤華医療技術専門学校
幹事(選挙区部長)	山田　祐成	博愛病院
幹事(10周年特別企画委員長)	伊東竜太郎	鶴見台病院
幹事(広報部長)	中務　欽章	㈱しんせいの杜
幹事(学術部長)	調整中	調整中
幹事(調査部長)	釘宮慎太郎	社会福祉法人萌葱の郷
監　事	佐藤　浩二	元　大分県作業療法協会長
監　事	渡邉千鶴子	石垣病院

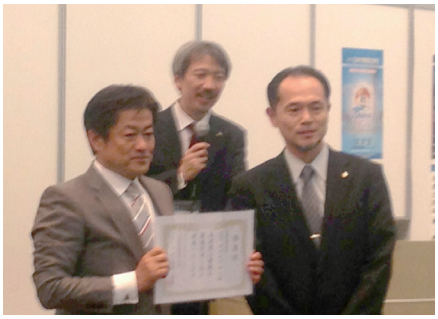
中部選挙区部長（衆議院議員選挙1区）	山田　祐成	博愛病院
南･西部選挙区部長（衆議院議員選挙2区）	伊東　和幸	ケアタウンながと
北部選挙区部長（衆議院議員選挙3区）	尾山　泰宏	介護老人保健施設　いでゆの園

【活動成果】

～推薦状の交付～

▲小川　克己 氏

▲田中　昌史 氏


▲山口　和之 氏

▲吉良　州司 氏

▲土居　昌弘 氏

▲吉竹　悟 氏

▲小嶋　秀行 氏

▲馬場　林 氏

▲森　誠一 氏

▲藤田　敬治 氏

▲衛藤　延洋 氏

▲岩川　義枝 氏

▲大塚　州章 氏

▲冨松　万平 氏

▲加藤　幸雄 氏

▲佐藤　昭生 氏

『選挙応援を行った候補者：10 年間延べ 48 名』

【各議会にて】

各議会にて 当連盟との意見交換内容を議会質問として実施されたものを紹介します。

■ 2014年9月 大分県議会【土居昌弘氏（大分県議会議員）当時】

内容：高齢者の福祉、特に高齢者の健康寿命について

《土居議員》

Q: 高齢者の福祉、特に高齢者の健康寿命について、見解を伺います。

《広瀬知事》

A: 県では、身体機能の低下した高齢者が、元気で自立した生活を取り戻すことができるように、**自立支援型のケアプランを策定していくための地域ケア会議の取り組みを支援しております。また、介護サービス事業所向けの生活機能向上支援マニュアルの作成**や、**高齢者が気軽にできる体操の普及**などにも努めています。

さらに、高齢者が、豊かな知識や経験を生かし、生きがいを持って社会参加することも大切であると思います。

大分県健康寿命男性日本一

令和3年12月の発表では、男性1位、女性4位と飛躍的に順位を伸ばし、男性は「日本一」を達成しました。

大分県では「健康寿命日本一おおいた創造会議」をプラットフォームとして、健康アプリ「おおいた歩得」を活用した運動の促進、塩分控えめで野菜たっぷりな食事「うま塩・もっと野菜」の普及、「健康経営事業所」の登録数を増やし、事業所ぐるみで健康づくりの取組を行うなど、官民一体となったさまざまな取組を推進。

■ 2015年3月 大分市議会【堤 智道氏（大分市議会議員）】

内容：地域ケア会議の強化について

堤 智道
大分市議会議員
（みんなの党：当時）

議員より当連盟にTEL
「聞かせてもらった内容質問します」
↓
連盟幹事2名
大分市議会に傍聴へ

平成27年3月11日　大分市議会平成27年度第1回定例会

地域ケア会議の強化について

Q「今後の地域ケア会議システムの充実・推進は？」
「基幹型の地域包括支援センターを大分市も持つべきでは？」

A：大分市では、「個別ケースの会議」「日常生活圏域の会議」「市全体の会議」のボトムアップ形式で構成することにしている。個別ケースの会議では、理学療法士、栄養士、歯科衛生士等専門的な意見や助言を求めていく。

Q「構成メンバーに障害福祉課・生活福祉課・サービス提供事業者等も加えるべきでは？」

A：認知症や精神疾患が疑われる高齢者により専門的な立場からの意見も必要になると考えている。このようなことから、医療関係者や行政の関係官、介護サービス提供事業者等必要により要請をすることに、高齢者が住みなれた地域で安心して生活を送ることができるように努めていきたいと考えています。

6月現在、実際にサービス提供事業者に参加要請があるなど変化が見え始めています。

■　2017年３月　大分市議会【衛藤延洋氏（大分市議会議員）】

内容：「大分市の地域ケア会議の運営方法・検討内容について」

地域包括支援センター職員の増員を

▼▼▼新市民クラブ　衛藤（えとう）延洋（えんよう）

質問　地域包括支援センターへの相談内容は複雑化・多様化している。例えば、昼夜を取り違えた高齢者からの深夜の電話が長時間に及ぶことは日常的である。また、ケアプランの作成が負担となり、多くの職員は時間外勤務を行っている。高齢者が増加する中で、職員増員の必要性は差し迫っていると考えるが、見解は。

福祉保健部長　地域包括支援センターは地域の中核的機関として相談業務が年々増加している。ケアプラン作成業務が負担となり、本来の業務の相談業務や介護予防業務等に支障を来している。職員の増員については、第８期介護保険事業計画策定委員会の

≪大分市議会だよりから抜粋≫

≪大分市議会での発言より≫

作業療法士がいることで、ケア会議の助言者を包括が自前で持てる。あるいは地域住民向けの介護予防の普及啓発が自前でできる。

総合事業対象者C型の対象者が非常に今、少ないと思います。その総合事業対象者C型の対象者を包括が、言い方は悪いんですけど、拾い出しやすくなってくると。それから、障害者が多岐、例えば精神障害や片麻痺にわたった際に対応しやすいとか。ほんの1例ですけれども、専門職種を、こういう管理栄養士や、あるいは作業療法士や、あるいは歯科衛生士を入れることによって、相当、業務改善になるんだろうというふうに私は認識をしております。

衛藤　延洋 氏（大分市議会議員）

■　2018年12月　竹田市議会【吉竹　悟氏（竹田市議会議員）当時】

内容：福祉政策・サービス（リハビリテーション専門団体の活用）について

吉竹　悟

福祉政策・サービス（リハビリテーション専門団体の活用）について

問　**健常者のみならず、障がいのある人の就労支援のために作業能力向上を目指す必要がある。発達障がいは成人を迎えてからの問題ではなく、幼少期より何らかの原因を積み重ねている方が多い。そこで、児童生徒の健全育成・進学・就業へと結ぶ必要がある。発達障がい等の早期発見、早期支援、就業支援のためには、専門的知識を持った作業療法士等から直接支援を受けられる体制整備が必要と思うが見解を問う。**

学校教育課長　校外からの支援として、竹田支援学校の専門の先生に来ていただき、支援の必要な児童生徒に対して、どの様な支援が必要であるか助言していただいている。さらに、大分大学医学部を中心に医療との連携も深めている。単なる診察室の診療ではなく、実際に教室に来ていただき授業中の子どもの様子を見てもらう事もある。また、ケースに応じて、児童相談所、社会福祉課、教育支援センターサフラン、竹田支援学校等の関係機関と連携しながら、チームで児童生徒の支援を行っている。一人ひとりの発達の様子を多面的に検討し、指摘のように、作業療法士等に学校現場に来てもらい、教職員の研修を実施する事や、支援が必要な子どもを実際に見ていただきアドバイスを受けることは、とても効果があると考える。

専門職によるさらなる支援体制の構築について、ネットワーク会議において今後も検討を重ねていく。

久住高原日本一マラソン練習コースについて

問　**練習のみ利用する市外宿泊者と、市内宿泊者との利用方法についての今後のあり方を問う。**

生涯学習課長　宿泊人数などの要因で、市外宿泊者が練習のみ利用するケースが多い。現在、協力金をお願いしているが、スポーツツーリズムとしての展開や、管理費用等を含め、今後コースのあり方を検討する。

《たけた市議会だよりから抜粋》

■ 2022年９月 大分県議会定例会【吉竹 悟氏（大分県議会議員）】

内容：「障がい者を巡る諸課題について」

吉竹 悟 氏
（大分県議会議会議員）

≪大分県議会定例会議発言より≫

・障がい者を巡る諸問題について（発達障がい児への通級指導について）

平成２３年度に実施された文部科学省の全国調査では、公立の小中学校の通常学級に在籍する児童生徒のうち、発達障がいの可能性のある児童生徒の割合は全体の6．5%と推計されています。30人学級であれば、その内の２人は発達障がいの可能性があるということであり、今や身近であるこうした児童生徒への支援が大切があると考えています。

特に最近は、障害に合わせて個別に指導する必要性への理解が広まったこともあり、通常学級に在籍しながら、週に１、２回障害に応じた特別な指導を受ける「通級指導」が増えており、本件でも現在59教室、訳470名の児童生徒が学んでいます。

しかしながら、教師は発達障害の専門的な立場ではありません。また、多くの児童・生徒を指導していかなければならないことから、なかなか一人一人に多くの時間を割いていくことは現場ではできないのが現状です。

そのような中、先日、発達障がい児をサポートする作業療法士の方とお話する機会がありました。OT（作業療法士）であれば、その専門知識を活かして、その現場で行動観察をして適切な指導の方向性を見出していくことができるとのことであり、「特別支援学校や特別支援学級だけでなく、通級指導教室や通常学級においても、作業療法士の視点が入ることで、生徒の学習や生活環境は良くなっていくと考えています。」とのことでした。

現在でも発達障がいの訓練を専門機関で行う際には、作業療法や理学療法など必要な専門家が携わっていますが、なかなか通常の教育現場までは入っていないのが現状です。

本件の障がい者計画では、多様な障がいへの対応として、外部人材の活用による幼稚園、小・中学校等、高等学校における障がいのある幼児・児童・生徒への対応の強化を掲げており、PT（理学療法）、OT（作業療法）等の専門家とのネットワーク構築により、各分野における専門性の高い外部人材を活用した事業研究会の実施など効果的な専門性向上を目指すこととしています。

また、本年度から小中学校通級指導教室充実事業として、通級における指導システムの構築と担当教員の専門性の向上を図る事業がスタートしています。

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築に向け、外部人材等と連携しながら、増加する発達障がい児への教育を充実させていく必要性があると考えます。

こうしたことを踏まえ、発達障がい児への通級指導への充実に向け、外部人材との連携を含め、今後どのように取り組んでいかれるのか教育長の見解をお伺いします。

■ 2019年９月 豊後大野市議会【佐藤 昭生氏（豊後大野市議会議員）】

内容：「学童保育と作業療法士の連携事業について」

歯と口の健康づくりについて

全てのライフステージで取り組む

質 本市における口腔保健対策の具体的な取り組み内容と子どもの虫歯対策について伺う。

答 生活福祉統括理事 市の健康づくり計画に基づき、口腔保健対策を妊娠期から高齢期までの全てのライフステージにおいて、健康づくりの基本施策に位置づけ、歯と口の健康づくりに取り組んでいる。

虫歯対策については、本年度の学校教育基本方針で「虫歯ゼロ」を

佐藤昭生（さとうあきお）
黎明会

質 岡山県学童保育連絡協議会では、学童保育と作業療法士の連携をスタートし、先進的な取り組みをしている。本市においてもこの事業に取り組んでいるとのことだが内容について伺う。

答 子育て支援課長 発達障がい等に関する知識を有する放課後児童クラブ巡回アドバイザー（作業療法士）がクラブを訪問し、子どもや支援員、保護者の話を聞き取り、助言などを行っている。

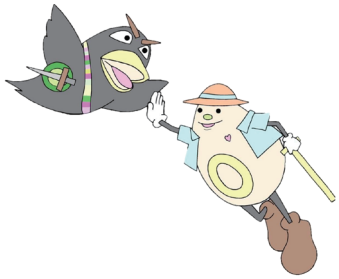
学童保育と作業療法士の連携事業について

継続して取り組む

佐藤 昭生 氏
（豊後大野市議会議員）

公益社団法人 大分県作業療法協会 創立 40 周年
大分県作業療法士連盟 設立 10 周年

合同記念講演会＆記念式典



日時：2022 年 10 月 16 日（日）10:00 ～ 12:20
場所：大分県労働福祉会館ソレイユ　7F カトレア＆ Web 配信

記念講演

講演「燃えよ！作業療法士～地域の明日を革新する～」
作業療法士議員サミット　（ダイジェスト動画）
「作業療法の未来を明るく、政治をもっと近くに」

記念講演では、杉原素子氏に、協会と連盟がともに歩んだ10年を振り返り今後10年の展望や方向性について示唆していただいた。

連盟10周年の軌跡やOT議員サミットのダイジェスト動画も上映した。

1．開　　会　　副会長　　日隈　武治
2．式　　辞　　協会会長　　高森　聖人
　　連盟会長　　荒木　良夫
3．日本作業療法士協会長あいさつ
　　一般社団法人日本作業療法士協会会長
　　中村　春基
4．来賓祝辞　　大分県知事　　広瀬　勝貞
　　一般社団法人 大分県医師会　会長
　　河野　幸治
　　前参議院議員　　足立信也
5．来賓紹介
6．祝電披露
7．表　　彰　　足立信也氏（前：参議院議員）
　　衛藤延洋氏（大分市議会議員）
　　藤田敬治氏（大分市議会議員）
　　土居昌弘氏（竹田市長）※不参加、
　　吉竹悟氏（大分県議会議員）
　　佐藤昭夫氏（豊後大野市議会議員）
8．謝　　辞　　（閉会の挨拶）　副会長　佐藤　孝臣

記念式典では、オンライン参加と現地参加を分けハイブリット開催とした。

また、自立支援型のリハビリテーションの発展に寄与していただいた関係議員に感謝状を贈呈した。

＜足立信也氏（祝辞にて）＞ ＜感謝状贈呈（左より）佐藤昭生, 衛藤延洋, 吉竹悟, 足立信也＞（敬称略）

大分県作業療法士連盟設立10周年特別企画

「議員サミット」

YouTube にて視聴可能
【大分県作業療法士連盟】
で検索

テーマ『作業療法の未来を明るく、政治をもっと近くに』

作業療法議員と作業療法の未来を語る

日　時：令和４年８月19日（19:00 ～ 21:00）
議　員：中村　義雄　氏　（福岡県北九州市議会議員）
　　大田　祐介　氏　（広島県福山市議会議員）
　　浦野　さとみ　氏　（東京都中野区議会議員）
　　牛尾　容子　氏　（広島県広島市議会議員）
　　河合　英紀　氏　（大阪府河内郡河南町議会議員）
　　志智　央　氏　（愛知県稲沢市議会議員）
場　所：大分県作業療法協会ビル（zoom 開催）

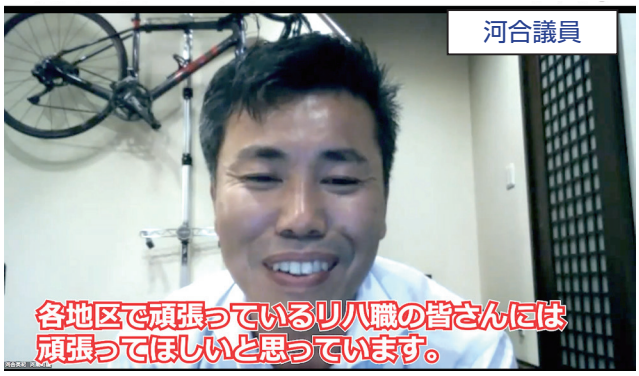
第１セッションテーマ
『高齢化社会において議員として作業療法士としてできること望むこと』

各区役所にリハビリ専門職を配置、行政の中枢である本庁舎にリハビリ専門職を入れていくことが大事。

≪今まで取り組んできたことや今度の施策について≫

●作業療法士が、短期通所型サービスCでADLの改善の結果を見せないといけない。それぞれが高い意識をもって地域で目の前の利用者の為に全力をだしてほしい。
●介護予防の行政の的確なインセンティブの重要性、これを確立して地域貢献します。ただ、予算をとってくるのは議員の役割ですから…（河合議員）
●『認知症になっても暮らしやすい広島を作る会』など，認知症の方々を地域で支え合い、ファッションショーなどを開催している。まさに作業療法士と議員の活動を両立している状況です。（牛尾議員）

※介護予防・日常生活支援総合事業における短期集中型（通所型・訪問型サービスC）利用者の日常生活に支障のある生活行為を改善するために、利用者の個別性に応じて、専門職が関与したプログラムを、短期間で集中的に実施するサービス。



第 2 セッションテーマ
『こども達が住みやすい居場所づくり、議員として作業療法士としてできること望むこと』

市議会の一般質問において学習障害（ディスレクシア）に対する合理的配慮についてお話しされていました。具体的にはどのように取り組まれているのでしょうか？

また、インクルーシブ教育の観点から学校での発達障害者支援や個別支援が必要な児童に関して、学校側の理解も必要なこともあると思います。この点に関してどのような働きかけをされていますか？

僕自身が不登校になった経験があり、そのこともまた議員を目指した理由の一つなんです。不登校の子供の背景にはいろいろありますが、その一つに勉強についていけないとか、発達障害なども関与し周りとうまく接することが難しいということがあると思います。学校の先生や保護者含め周りの方々になかなか理解してもらえない現状があります。その問題を少しでも改善できればと考えています。

そういった発達障害をもった子供の特徴や対応など、学校の先生たちや周りの方々にもわかってもらえるよう議会などでも提言しています。

第 3 セッションテーマ
『地域の明るい未来のために～作業療法士が携われること、携わるべきこと～』

Q：議員として、地域の医療機関やそこで働く職員とどう連携（関り）をもっていますか？（浦野議員、志智議員）

A. 色々な場所に顔を出すのが一番、飲み会にも積極的に参加し、横の繋がりを大切にしています。（中村議員）

Q. 市民からの相談内容は他の議員は何が多いですか。
ちなみに私は医療や福祉関係相談が約8割です。（中村議員）

A. 私も、色々な相談を受けます。その相談を解決していく上で、その分野について勉強し、詳しくならなければならないと感じています。

職域を広げるのと一緒で、議員としての幅を広げることが大事と感じています。

良い機会になった。これで終わりにせず、また OT 議員で繋がっていきたい！

（ 中村議員）

設立 10 周年特別企画として、作業療法士の地方議員と『OT 議員サミット』と題し意見交換会を開催した。意見交換会内容は、『普段取り組んでいる活動』『自分の想いと今後』について熱く意見交換された。積極的な意見が飛び交い作業療法の知識・視点を地域行政に活かしていることが理解出来た。

（YouTube で視聴可能（大分県作業療法士連盟のホームページからアクセスしてください））

各議員から「作業療法士議員の意見交換とても良い経験になった。」「ぜひこれで終わりにせず、また OT の議員で繋がっていきたい」との意見も聞かれた。

対面開催は、できなかったが、とても熱い意見交換会となった。

【部員紹介】

事務局

事務局長
森　勉

財務部長
小林幹生

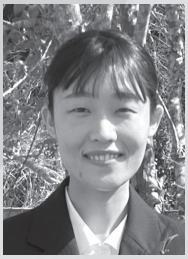
幸　洋介

衛藤　侑子

佐藤　加奈

植木　彩香

内田　優子


平山　佐和

後藤　美紅

ほか、
佐藤 美希
芳崎 広子

政治参画推進局

【選挙対策部】

選挙対策部長
甲斐　裕介

伊藤　未菜美

長野　利宏

小野　広江

ほか、
柴山　涼

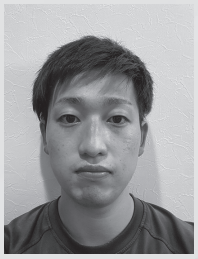
【若者に光を当てる政治参画推進部】

若者に光を当てる政治参画推進部長
鳥越　克志

学術調査局

【調査部】

学術調査局長
釘宮　慎太郎


森永　光法

中畑　聡一郎

畑辺　真乃介

武廣　茂樹

平川　翔太郎

【学術部】

学術部長
木村　友彦

五反田　さやか

寺　真理子

池永　健太

眞珠　宗彦

広報企画局

広報企画局長
木山　千枝

企画・広報部長
中務　欽章

猪野　由美子

武生　光陽

松本　海星

ほか、
菊池　由加里

10 周年特別企画委員長
伊東 竜太郎

ほか、
10 周年特別企画委員
大塚 悠貴

圏域

【中部圏域（衆議院議員選挙１区）】

中部選挙区部長
山田　祐成

菊池　由加里

高橋　弘樹

後藤　伸太

和田　和成

【南・西部圏域（衆議院議員選挙２区）】

中部選挙区部長
伊東　和幸

河野　誓也

菅　雅史

松坂　智徳

岩屋将貴

井上隼人

高畠悠太

【北部圏域（衆議院議員選挙３区）】

北部選挙区部長
尾山泰宏

沼田武一郎

飯田　智彦

柴山　涼

中原　笙

【今後の展望】～今までの10年間とこれからの10年～

「複雑な地域課題を解決！」

副会長 / 学術調査局長
田中　学
（㈲四季彩）

早いもので、大分県作業療法士連盟が設立して10年が経過しました。

開設当初は「どのように行動」してよいものか戸惑いながらスタートしたことを鮮明に覚えています。この10年の月日は作業療法士を取り巻く環境も大きく変化させました。これまでの医療機関中心の支援から総合事業への介入や地域包括支援センターのへの配置など地域から求められる内容も多岐にわたるようになりました。

その反面、見えてくる「複雑な地域の課題」や「既存の職域の限界」に気づくことも多々ありました。これらの課題に対してこれまでの10年間はその都度、関係議員の方々に支援をいただき、意見交換等を行う事で問題解決を図ってきました。

これからの10年間については、自身でも主体的に企画立案できるように行政機関で働く作業療法士や作業療法士の地方議員誕生を目指し「結果に繋げる10年」にしていく必要性を感じます。

副会長 / 広報企画局長
木山　千枝
（介護老人保健施設　メディケア別府）

大分県民の健康維持向上に寄与していく！そのために自治体の議員さん達と交流して作業療法士（以下、ＯＴ）の仕事内容や必要性等も知ってもらおう‼と進み続けた10年でした。ほとんどの仲間達が同じ目標に向かってくれるものと思っていました。しかし「政治団体＝異質な活動。よくないこと」と敬遠するＯＴ仲間が意外と多いのには驚きました。政治へのダークなイメージがとても深い…。

これからの10年は、今まで行ってきたダークなイメージの払拭に加えて、ＯＴが日々行なっている仕事が政策につながって、大分県に良い結果をもたらしていることを丁寧に説明していこうと思います。個々のＯＴも自分達が地域づくりに寄与していることがわかり、関心を持ち、地域の方々も保健医療福祉の分野でＯＴをもっと必要としてくれるー10年後には大分県全市町村役場にＯＴがいる相談窓口があるーそんな景色を描いています。

これからの地域のために作業療法という情熱を

幹事 / 調査部長
釘宮　慎太郎
（社会福祉法人 萌葱の郷）

当連盟はたくさんの方々のサポートの下、設立10周年の節目の年を迎えました。この10年間、私たちの地域を取り巻く環境は大きく変化をしており、今後も様々な地域課題に対し作業療法士として向き合っていく必要性が高くなっていくのではないでしょうか。また、このような時代の変化の中で保健・医療・福祉・教育等の様々な場面で『作業療法（士）の認知度や必要性は少しずつ高まっている』という声を聞くことが増えてきた印象を持っています。これからの未来のために『作業療法（士）を広めていくこと』は当連盟活動の大きな意義と感じています。そのためには政治の力は必要不可欠でもありますし、自分達が暮らす地域を知り、より良い地域・より良い未来を創り上げていくという情熱を持つことも非常に重要になってくると思います。作業療法（士）を必要としている方々のために、私たちの情熱を絶やすことなく共に未来を創っていきましょう。

【資　料】

大分県作業療法士連盟設立趣意書
大分県作業療法士連盟規約
中期活動計画
・第１期中期活動計画振り返り
・第２期中期活動計画

大分県作業療法士連盟　設立趣意書

【設立趣意】

私たちは、保健医療福祉等の領域において、作業療法（リハビリテーション）が大分県民の健康的な生活の維持向上に寄与するために、（社）大分県作業療法協会と全面的に協力し活動する政治団体として「大分県作業療法士連盟」を設立することとしました。

私たち作業療法士は、対象者の機能や能力の改善を図るだけでなく、その方々が心ゆたかに活き活きとした生活（人生）を獲得できるよう支援する専門職です。数あるリハビリテーション職種の中で、最も生活の質を向上させる技術を有し、対象者の自律した地域生活を支援する専門職と認識しています。私たち作業療法士が日々多くの対象者の方々に関わる中で、「政策的にもっとこうあるべきではないか」、「こうあれば、この方々は○○できるのに」といったことを考えさせられることがしばしばあります。このような現場で感じる多くの事柄を一つの声として政治に投げかけることは県民、或いは国民の保健医療福祉の増進に大きく貢献できる手段の一つと考えます。

現在、対象者の自律した生活を支援する制度の拡充に向け国政に働きかける団体として日本作業療法士連盟が活動しています。しかし、地方自治が進む今、国政に働きかけるだけでは不十分です。事実、介護保険や障害福祉サービス内容の一部は県政によって決定し行われています。このことから理解できるように県単位での連盟の設立が必要です。私たちは、単に自分たちの権利擁護や地位向上を望んでいるわけではありません。リハビリテーションに関する専門職として倫理観を持って広く社会に貢献していきたいと考えての行動です。

私たち大分県作業療法士連盟は、(社)大分県作業療法協会と連携を図り、県政に対して具体的な提言を専門職の立場から行い、地域で暮らす対象者の方々が、少しでもより良い保健医療福祉の恩恵に与れるように活動を展開します。

どうか皆様のご賛同をよろしくお願いします。

平成２４年２月

発起人一同

大分県作業療法士連盟規約

大分県作業療法士連盟規約

第１章　総　　則

（名称）

第１条　本連盟は、大分県作業療法士連盟と称する。

略称は「大作連」と称する。

（目的）

第２条　本連盟は、社団法人大分県作業療法協会と連携し、作業療法士の政治意識の高揚を図り、リハビリテーションの立場から必要な政策提言等を行い、もって県民の保健・医療・福祉の発展及び充実に資することを目的とする。

（本部）

第３条　本連盟の本部を大分市に置く。

（活動）

第４条　本連盟の目的達成のため、次の活動を行う。

(1)　大分県下の医療・保健・福祉・教育・職業等の関連諸制度の改善を図るための諸活動

(2)　作業療法士の立場から諸領域の問題について具体的な政策提言を行うための諸活動

(3)　政治活動及び政治制度の研究

(4)　政治資金規正法に基づく諸活動

(5)　政党並びに政策協定を結んだ議員との関係を強化する為の諸活動

(6)　大分県並びに県下市町村との連携を推進する諸活動

(7)　リハビリテーション関連団体をはじめ関係諸団体との連携強化のための諸活動

(8)　前各号のほか本連盟の目的を達成するために必要な諸活動

（組織）

第５条　本連盟は、本連盟の目的に賛同する者をもって組織する。

第２章　会　　員

（会員種別）

第６条　本連盟の会員は、本連盟の目的に賛同する正会員及び賛助会員とする。

２　正会員は、社団法人大分県作業療法協会の会員であり、本連盟の趣旨に賛同し、入会した者をいう。

３　賛助会員は、正会員以外で、本連盟の趣旨に賛同し、入会した者をいう。

（入会）

第７条　正会員又は賛助会員として入会しようとする者は、会長が別に定める入会申込書により会長に申し込むものとする。

（会費）

第８条　本連盟の正会員は、本部会費として年額 1,000 円を本連盟に納めなければならない。

２　本連盟の賛助会員は、本部会費として年額１口 5,000 円とし、1 口以上本連盟に納めなければならない。

（寄付）

第９条　本連盟は、本連盟の目的・活動に賛同する者から寄付を受けることができる。

（除名）

第 10 条　会員にして次の行為をなしたる者は役員会の議を経て退会させる。但し、本人に弁明の機会が与えられる。

(1)　本連盟の規約及び決議に違反したとき

(2)　本連盟の名誉を汚したとき

第４章　役　　員

（役員定数）

第 11 条　本連盟に次の役員を置く。

(1)　会長　　１名

(2)　副会長　若干名

(3)　幹事　　10 名程度

(4)　監事　　２名

(役員の職務)

第 12 条　会長は、本連盟を代表し、会務を統理する。

２　副会長は、会長を補佐し、会長が事故あるときは、会長の職務を代行する。

３　幹事は、部・局を構成し、規約および総会の議決に基づき、本連盟の活動を執行する。

(1)　組織に関すること

(2)　財務に関すること

(3)　渉外に関すること

(4)　企画に関すること

(5)　調査に関すること

(6)　学習に関すること

(7)　広報に関すること

(8)　その他本連盟の活動に関すること

４　監事は本連盟の財務を監査する。

５　本連盟は、必要があると認めるときは、役員会の議を経て、特定の事項を行わせるために特別委員会を置くことができる。

（選出）

第 13 条　会長は役員会にて推薦され、総会において承認の上、選任される。

２　役員は会長が推薦する。

３　副会長、幹事、監事は会長が推薦した者を総会において承認の上、選任される。

（任期）

第 14 条　役員の任期は１年とする。

２　任期の始期は、選任された通常総会の終了の翌日とする。

３　役員が欠けたときは、その補欠の役員を役員会にて選任しなければならない。

４　補欠の役員の任期は、前任者の残任期間とする。

５　任期の満了によって退任する役員は、新たに選任された役員が就任するまで引き続きその職務を行う。

（顧問・相談役）

第 15 条　必要があれば顧問および相談役を置くことができ、顧問および相談役は会長が選任し、任期は１年とする。

（報酬）

第 16 条　役員は無報酬とする。

Ⅲ．自立支援に関る活動

① 居宅介護支援事業所が、自立支援に寄与できるよう環境整備に働きかける。

② 指定居宅サービス事業所が自立支援を推進できるよう環境整備に働きかける。

平成 30 年度より「高齢者の自立支援・重度化防止等に関する取組を支援するための新たな交付金」が設置された。これからも解るように、地方自治に自立支援が求められている。

現在、アセスメント・取り組みの見える化・アウトカム・インセンティブ付与等の適正な在り方及び、居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所等の連携強化など、様々な取り組みが、なされている所である。

これら、自立支援に関連する事項のより良い実現のため、議員と意見交換を行い、各議会等に働きかけていく。

Ⅳ．就労に関する活動

① 障害の種類に関わらず、就労する機会を得られるよう働きかける。

② 年齢にかかわりなく働き続ける事の出来る生涯現役社会へ向けて働きかける

平成 30 年度障害福祉報酬改定では、就労移行支援サービスにおいて移行定着率を評価されるなど一般就労への移行が推進されるようになった。平成 29 年時点で大分県は、民間企業の障害者実雇用率が 2.44%.法定雇用率達成企業の割合が 61.4%と全国 10 位以内に位置している。

また、近年は、高齢者雇用の促進が図られている。大分県は、平成 30 年時点で 65 歳までの高齢者雇用確保措置の実施企業が 3 年連続 100%（全国で 10 県）であり、70 歳以上でも働くことが可能な企業が全体の 30%以上（全国 2 位）ある。障害者雇用・高齢者雇用において、数字上全国的に高い環境が有る。

これら、就労に関する事項において、より雇用者及び社会の理解が進み、先進的な取り組みが行われるように支援を行う。また、専門的知識を持った職種に相談できる環境を整え、安全性・やりがい・働き方等のより適正なマッチングが行われ、就労の安定した継続が、可能となるようにする。これら目的のため、議員や議会に働きかけていく。

Ⅴ．子育て支援に関わる活動

① 子育て支援及び教育過程において、個々の特性に合わせた支援が可能となるように働きかける。

② 放課後デイサービスや保育所訪問支援の内容を充実できるよう支援を行う。

③ 特別支援教育の充実のために働きかける。

地域包括ケアシステムにおいて、母子保健及び教育は、重要な課題となって様々な政策が行われている。

特に、発達障害の対応を含む子育て及び教育を取り巻く環境は、日々模索されている。専門的知識を持った関わりを受けられる環境が、有るか無いかで子供の将来は大きく変化する。これら支援体制を含む環境整備について、議員と意見交換行い、各議会等に働きかけていく。

Ⅵ．作業療法士の職域の拡大に関わる活動

① 上記Ⅰ～Ⅴ項目の達成の為に作業療法士の配置促進を促し、職域の拡大に働きかける。

② 行政作業療法士が多く活躍できる社会を目指し、働きかける。

地域共生社会の実現に向け作業療法士の活用促進の要望活動を実施する。具体的には、行政作業療法士を増やし、医療介護連携のみならず、障害児・者さらには、触法者の更生等にも作業療法士の活躍の場が拡大できるように働きかける。

Ⅶ．上記条項実現に関る活動

① 作業療法士の議員を誕生させる。

② 大分県作業療法士連盟の趣旨に賛同する議員との関係強化を図る。

③ リハビリテーション関連職種と共に要望書提出を行う。

④ 日本作業療法士連盟と共に請願を実施する。

⑤ 財政基盤の強化を図る。

大分県作業療法士連盟

第１期中期活動計画振り返り
（5 ヶ年計画：平成 26 年～30 年）

【主要目標】

【達成課題目標】
達成状況
【具体的行動目標】
達成状況

※ 枠内：達成状況・現状報告（5 カ年振り返り）

【主要目標】
第１期中期活動計画（5 ヶ年計画）：平成 26 年～30 年

作業療法士の視点より、以下Ⅰ～Ⅵの目標達成のため、大分県政・市政に対し政策提言等を行う。また、組織活動強化のためⅦの項目を定める。

Ⅰ．高齢者及び障がい者の地域生活支援に関る活動
① いかなる障害があっても、住み慣れた地域で生活できるよう働きかける。

Ⅱ．障害の予防に関る活動
② 我々県民が自分らしく生活でき、健康寿命の延長が図れるよう働きかける。

Ⅲ．障がい者の就労に関する活動
③ 障害の種類に捉われることなく就労する機会を得られるよう働きかける。

Ⅳ．介護サービスの適正化に関る活動
④ 介護サービスの適正化・自立支援のために地域資源の強化に働きかける。

Ⅴ．障がい児教育に関る活動
⑤ 教育過程において、個々の特性に合わせた支援の促進に働きかける。

Ⅵ．作業療法士の職域の拡大に関わる活動
⑥ 上記項目を拡充し職域の拡大に努める。

Ⅶ．上記条項実現に関る活動
⑦ 大分県作業療法士連盟の趣旨に賛同する議員との関係強化を図る。
⑧ 作業療法士の議員を誕生させる。

※各主要目標に「達成課題項目」を具体的に設け、活動を計画する。

【達成課題目標：達成状況】
第１期中期活動計画（5 ヶ年計画）：平成 26 年～30 年

Ⅰ．障がい者の地域生活支援に関る活動

Ⅰ－１．正確な認定調査の実施（サービス提供事業所からの情報収集）

Ⅰ－２．障害者福祉センター（ホルトホール内）を障害手帳所有者のみでなく、介護保険要支援者等も利用可能に（精神障害者手帳･介護保険証書の活用範囲の拡大）

Ⅰ－３．NA など障害者自助グループの例会実施場所の確保（公共施設の利用）

Ⅰ－４．精神科病院の休日及び夜間当番医制度の実施

Ⅰ－５．精神科受診に対する支援の強化（病院・保健所から自宅訪問し必要に応じ入院の援助を行なう）

Ⅱ．障害の予防（生活習慣病予防・介護予防）に関る活動
Ⅱ･Ⅶ－１．地域包括支援センターへの作業療法士の配置し認知症予防への介入・介護予防教室等の啓発活動への参加

Ⅱ－２．健診事業への介入（乳幼児、児童、成人病、高齢者、等）
- 健康診断にて肝機能検査γGTP が高値であり、アルコール依存の予備軍者に対しハッピープログラムを実施。
- 35～39 歳の市民健康診断にて生活習慣運動習慣の評価（スクリーニング）を実施し一次予防に努める。
- 40～74 歳において特定健診において運動機能と認知機能の検査の実地義務を設ける
- 75 歳以上の方の「後期高齢者医療広域連合」対象者に対する健診の義務化（介護保険利用者以外）と認知症に対するスクリーニングの実施
- 発達検診に身体精神機能面より検査するだけでなく。リハビリテーションの視点よりアドバイスを実施。

Ⅱ－３．公共施設の健康相談窓口への介入

Ⅲ．障がい者の就労に関る活動
Ⅲ－１．ジョブコーチを病院勤務作業療法士が実施可能に

Ⅲ－２．高齢者就労支援事業への講師派遣

Ⅲ－３．就労時の訪問指導の強化

Ⅳ．介護サービスの適正化に関る活動
Ⅳ－１．県内全市町村の地域ケア会議の開催

Ⅳ－２．地域包括支援センターへの配置

Ⅳ－２．デイサービス等の機能訓練指導員としての配置の強化

Ⅴ．障がい児教育に関る活動
Ⅴ－１．公立学校への配置（特別学級）

Ⅴ－２．乳幼児健診への同行

Ⅴ－３．養護学校への配置

Ⅴ－４．就学時の訪問指導の強化

Ⅵ．作業療法士の職域拡大に関わる活動
Ⅵ－１．県内公立病院への作業療法士の配置

Ⅵ－２．地域包括支援センターへの配置

Ⅵ－3．地域障害者職業センターへの配置

Ⅵ－4．刑務所･少年院への関り

Ⅶ．上記条項実現に関る活動
Ⅶ－1．（県・市）各種委員会への作業療法士の参加

【達成状況】
結　果：全項目において議員と情報提供及び意見交換実施
一部意見交換内容を、議会にて、議員より一般質問及び提案として実施
（詳細は、以下：具体的行動目標及び、5 か年計画タイムスケジュールに記載）

【具体的行動目標：達成状況】

第１期中期活動計画（５ヶ年計画）：平成 26 年～30 年

1．　請願の実施

① 大分県作業療法士連盟として紹介者議員の協力のもと請願
② 26 年度より請願を定期的に実施
③ 達成課題項目を検討し、具体的内容を請願
④ 県内のみならず国政に関る内容についても請願
（日本作業療法士協会及び日本作業療法士連盟と連携し実施）

【達成状況】
結　果：請願未実施（議会での質問という形で実施）

詳　細：大分市や県などに提出されている請願書の内容調査（実施）
≪請願内容検討≫
■ 大分市のケア会議の現状を鑑み（H26 年当時）大分市に対し、会議への介護保険事業所の参加や自立支援の会議になるように提案。
≪方法の検討≫
「陳情」「請願」「議員からの発言（議会や委員会も含む）」どの方法が良いかを検討
■ 「請願」「陳情」「議会での一般質問」について議員と意見交換する中で、「一般質問」が現時点では最適の方法と判断し、その為の意見交換資料の作成に変更。
➢ 陳情・請願：その目的だけの単団体を作ることが多い。もしくは、多団体で連名して意見を出すことや、署名議員を党を超えて集める必要もある。しかしながら、議員の気持ちは低くなりがちになるため、個人に依頼することの方が強い場合もある。
➢ リスク：一度却下を受けると同内容を、再度提出することが出来ず、結果として意見を通すことが出来ないことが多い。
≪達成内容≫
■ 議員よりの質問として市議会にて実施３件（当連盟に連絡があった件のみ記載）
➢ 平成 27 年 10 月『 堤 智道 』大分市議会議員より
内容：「大分市でも地域ケア会議を開催する必要があるのでは」
➢ 平成 29 年 3 月『衛藤 延洋』大分市議会議員より
内容：「大分市の地域ケア会議の運営方法・検討内容について」
➢ 平成 30 年 12 月『 吉竹 悟 』竹田市議会議員より
内容：【健康増進課】に対し
「竹田市に根差した健康・医療・介護・福祉を充実するためにリハ職を積極的に活用することを検討するべきでは」
「自立支援型の心豊かに活き活きとした地域づくりの為に自立支援型の援助を問う」
「地域ケアシステムに関わる事業をどのように連携強化し質を高めるのか」
【社会福祉課長】に対し
「保健・医療・福祉・及び教育・職業等の総合的な制度の拡充を」
「リハ関連団体とさらに関係強化の必要があるのでは」
「より良い児童の育成の為に、環境調整等を専門知識を持った作業療

法士等からアドバイスを受けるような活用を検討してみては」

≪今　後≫
■ 請願としては、日本作業療法士協会制度対策部が作成する意見書と同内容を請願として、日本作業療法士連盟と共に行うことが重要と考える。（地域議会と中央議会から同内容を請願する）

2．　協力議員との関係強化

① 県議会・市議会議員との関係強化を図り、特定の協力議員と関係を深める。
② 県議会・市議会・関係する委員会の傍聴に参加。
（請願内容が検討された際及び協力議員の質疑時等）
③ 選挙応援の実施（27 年度県議会選挙等）

【達成状況】
≪関係を持った議員の推移≫
結　果：　議員との関係強化については、参議院議員の足立信也氏をはじめ、大分県議や市議との意見交換会や研修会を定期的に行った。このことで、自分たちの想いや、議員からの医療介護などの問いに対し、意見を交わした。また平成 29 年度からは各支部の新人歓迎会にも参加していただき、幹事のみならず一般会員と交流が図れた。
　また、意見交換した内容を３名の議員が議会の一般質問として行った。そのうち１例は、実際に議会の中で「作業療法士の有効活用」という内容で、「自立支援型の医療福祉の充実」「より良い児童の育成」「地域包括ケアシステムの充実」を語っていただき、「行政にリハビリテーション職が必要」と訴えていただいた。
　選挙応援については、前述の関係を強化した議員候補を中心に、国政選挙５名、県知事選挙１名，県議会議員選挙４名、市長選挙４名，市議会議員選挙９名の応援を行い、推薦状の交付や、為書、出陣式・個人演説会・開票見守り会への参加、政策協定の締結を行った。１議員については（自分達の候補者の選挙運動の練習として）実際に選挙事務所にスタッフとして参加し、選挙活動の具体的理解にもつなげた。

3．　作業療法士の議員を誕生させる。

① 選挙までの準備・選挙活動における活動方法について学び、選挙運動体制を整える。
② 候補者の選定・育成
③ 選挙資金の準備（平成 29 年度までに貯蓄を 100 万円とする）
④ 選挙応援体制の確立（各職能団体と協力体制を確立する）
⑤ 後援会の結成

【達成状況】
結　果：未達成（一部達成）
次期大分市議会議員選挙に向け候補者を選出

4．　組織強化。

① 組織率の向上（平成 30 年までに、県協会会員の８割以上の入会率とする）
② 組織力の強化（連盟活動の活性化）

【達成状況】
結　果：
≪部局改編≫
平成 24 年度：1 局 3 部制（会長１名，副会長２名，幹事７名）
平成 29 年度：3 局 7 部制，圏域 3 区制
（会長１名，副会長２名，幹事 7 名，圏域部長３名）
平成 31 年度：4 局 9 部制，圏域 3 区制へ変更
（会長１名，副会長３名，幹事 10 名，圏域部長３名）
≪会員数・組織率・引き落とし手続き者数≫
平成 24 年度会員数 217 名（会員率 30%），引き落とし手続き完了者 175 名（80%）
↓
平成30年度会員数542名（会員率51.5%），引き落とし手続き完了者471名（83.8%）

5．その他

①（公社）大分県作業療法協会と研修会及び広報等の共同実施

【達成状況】
結　果：
① 政策協定の実施『吉良 州司』『小川 克巳』
② 政治献金 10 万円「小川克巳」
③ 日本作業療法士連盟と共催研修会
後援：大分県作業療法協会・大分県理学療法士協会・言語聴覚士協会・大分県理学療法士連盟・
④ ネット選挙対策
⑤ 18 歳選挙対策
等

大分県作業療法士連盟

第２期中期活動計画
（5 ヶ年計画：2019 年～2024 年）

【主要目標】
【具体的行動目標】

中期活動計画（5 ヶ年戦略）案
【主要目標】

【背景及び基本方針】
「地域包括ケアシステム」の深化に伴い、高齢者の分野から障害児（者）・生活困窮者・教育へと徐々に範囲は拡大し、平成 30 年度の報酬改定を機に地域共生社会の構築へと移行することとなった。
これにより、地域住民の充実した生活の為に、行政機関や教育機関など場所を問わず、日常生活支援や子育て支援、就労上の課題等の解決に向けた活動が必要となってきている。
そこで、作業療法士の視点より、大分県内の地域共生社会の実現のため、以下Ⅰ～Ⅴの目標を定め、議員や議会に対し政策提言等を行う。条例制定等の環境整備を目指す。
また、作業療法士の職域拡大を目指しⅥの項目を設ける。そして、組織強化、目標達成の手段としてⅦの項目を定める。特に、第 2 期活動計画内にⅦ-①「作業療法士の議員誕生」の実現へ向け活動を行う。

Ⅰ．高齢者・障害者の生活の支援に関わる活動
① 疾病障害等により、生活上の困難を抱える方への支援体制の整備に働きかける。
② 住み慣れた、または自ら選んだ地域で生活できるよう働きかける。
③ 精神障害者にも対応する地域ケアシステムの整備に働きかける。

高齢者の地域生活支援を目的とした「地域包括ケアシステム」は、総合事業をはじめ様々な体制が整ってきている。これまで、作業療法士は、地域ケア会議等への出席など、地域福祉で求められる機会も増え、同時に一定の成果を収めてきた。
今後は、これまで以上に、それぞれの地域課題に沿った提案を行い、議員と意見交換し、各議会等に働きかけていく。
また、精神障害者に対しても、同様に働きかける。

Ⅱ．健康増進及び介護予防に関る活動
① 健康寿命の延長が図れるよう働きかける。
② 市町村が実施する介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）への参画促進について働きかける。

「すべての県民が生涯を通じて健康で活力あふれる人生を送る事ができる社会の実現」のため、大分県は、県民総ぐるみの健康づくり運動を展開している。
また、市町村においても、介護予防・日常生活支援総合事業（総合事業）が様々な形式で実施され介護予防が展開されている。
今後の更なる健康増進及び介護予防事業の充実の実現のため、より自立支援の観点から、議員と意見交換を行い、各議会等に働きかけていく。

Ⅲ．自立支援に関る活動
① 居宅介護支援事業所が、自立支援に寄与できるよう環境整備に働きかける。
② 指定居宅サービス事業所が自立支援を推進できるよう環境整備に働きかける。

平成 30 年度より「高齢者の自立支援・重度化防止等に関する取組を支援するための新たな交付金」が設置された。これからも解るように、地方自治に自立支援が求められている。
現在、アセスメント・取り組みの見える化・アウトカム・インセンティブ付与等の適正な在り方及び、居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所等の連携強化など、様々な取り組みが、なされている所である。
これら、自立支援に関連する事項のより良い実現のため、議員と意見交換を行い、各議会等に働きかけていく。

Ⅳ．就労に関する活動
① 障害の種類に関わらず、就労する機会を得られるよう働きかける。
② 年齢にかかわりなく働き続ける事の出来る生涯現役社会へ向けて働きかける

平成 30 年度障害福祉報酬改定では、就労移行支援サービスにおいて移行定着率を評価されるなど一般就労への移行が推進されるようになった。平成 29 年時点で大分県は、民間企業の障害者実雇用率が 2.44%. 法定雇用率達成企業の割合が 61.4%と全国 10 位以内に位置している。
また、近年は、高齢者雇用の促進が図られている。大分県は、平成 30 年時点で 65 歳までの高齢者雇用確保措置の実施企業が 3 年連続 100%（全国で 10 県）であり、70 歳以上でも働くことが可能な企業が全体の 30%以上（全国 2 位）ある。障害者雇用・高齢者雇用において、数字上全国的に高い環境が有る。
これら、就労に関する事項において、より雇用者及び社会の理解が進み、先進的な取り組みが行われるように支援を行う。また、専門的知識を持った職種に相談できる環境を整え、安全性・やりがい・働き方等のより適正なマッチングが行われ、就労の安定した継続が、可能となるようにする。これら目的のため、議員や議会に働きかけていく。

Ⅴ．子育て支援に関わる活動
① 子育て支援及び教育過程において、個々の特性に合わせた支援が可能となるように働きかける。
② 放課後デイサービスや保育所訪問支援の内容を充実できるよう支援を行う。
③ 特別支援教育の充実のために働きかける。

地域包括ケアシステムにおいて、母子保健及び教育は、重要な課題となって様々な政策が行われている。
特に、発達障害の対応を含む子育て及び教育を取り巻く環境は、日々模索されている。専門的知識を持った関わりを受けられる環境が、有るか無いかで子供の将来は大きく変化する。これら支援体制を含む環境整備について、議員と意見交換行い、各議会等に働きかけていく。

Ⅵ．作業療法士の職域の拡大に関わる活動
① 上記Ⅰ～Ⅴ項目の達成の為に作業療法士の配置促進を促し、職域の拡大に働きかける。
② 行政作業療法士が多く活躍できる社会を目指し、働きかける。

地域共生社会の実現に向け作業療法士の活用促進の要望活動を実施する。具体的には、行政作業療法士を増やし、医療介護連携のみならず、障害児・者さらには、触法者の更生等にも作業療法士の活躍の場が拡大できるように働きかける。

Ⅶ．上記条項実現に関る活動
① 作業療法士の議員を誕生させる。
② 大分県作業療法士連盟の趣旨に賛同する議員との関係強化を図る。
③ リハビリテーション関連職種と共に要望書提出を行う。
④ 日本作業療法士連盟と共に請願を実施する。
⑤ 財政基盤の強化を図る。

【具体的行動目標】

1．　作業療法士の議員を誕生させる。（継続，一部改新）
① 選挙までの準備・選挙活動における活動方法について学び、選挙運動体制を整える。
② 候補者の選定・育成
③ 選挙資金の準備（平成 33 年度までに選挙活動貯蓄を 300 万円準備する）【改】
④ 選挙応援体制の確立（各職能団体と協力体制を確立する）
⑤ 後援会の結成
⑥ 選挙運動の実施【新】

2．　協力議員との関係強化（継続，一部改新）
① 県議会・市議会議員との関係強化を図り、特定の協力議員と関係を深める。
② 選挙応援の実施
③ 意見交換を行い、関係議員が、その内容を議会等で議案等として提出
④ 県議会・市議会・関係する委員会の傍聴に参加。
（請願内容が検討された際及び協力議員の質疑時等）
⑤ 政治資金寄付等の実施【新】

3．　請願・要望書の提出（継続，一部改新）
① 大分県作業療法士連盟として紹介者議員の協力のもと検討し、請願を行う。
② リハビリテーション関連職種と共に要望書提出を行う【新】
③ 県内のみならず国政に関る内容についても請願【新】
（日本作業療法士協会及び日本作業療法士連盟と連携し実施）

4．　組織強化
① 組織率の向上（令和 5 年までに、県協会会員の 8 割以上の入会率とする）
② 財政基盤の確立（会費の引き上げ）【新】
③ 圏域の細分化（支部の強化）【改】
④ 若い世代の組織や女性会などを組織する。【新】
⑤ 学生の内からの政治に対する意識を高める活動の実施。【新】

5．その他
①（公社）大分県作業療法協会と研修会及び広報等の共同実施

大分県作業療法士連盟　10周年記念誌　轍

発行日　2022年10月16日

編　集　創立10周年特別企画委員会
委員長　伊東竜太郎

発　行　大分県作業療法士連盟
【事務局】〒870-0124　大分市大字毛井553-1
TEL 097-529-9025　FAX 097-520-1766
E-mail　ooitaotrenmri@yahoo.co.jp

10 YEAR ANNIVERSARY

Oita Occupational Therapist Federation

2012-2022